

ねこの一ねざけ

ねこのめ「猫目」(名) 猫の目の如く去ばし、物事の變する。
ねこのひたひた「猫額」(名) せまきひたひた。
ねこば「猫藪」(名) ものゝひらひ取りて、知らぬ顔して居る。
ねこびたひ「猫額」(名) ねこのひたひた。
ねこま「猫」(名) ねこの古稱(野猫)。
ねこまた「猫間」(名) 猫の親骨のすかしほりの穴。
ねこまた「猫股」(名) 猫の年老いて尾二趾に分かれ、能く化(く)と稱せらるゝもの。
ねこみ「猫」(名) 寝て居る最中、「」を離す。
ねこむ「猫」(名) 寝て居る最中、「」を離す。
ねこめ「猫」(名) 寝て居る最中、「」を離す。
ねこも「猫」(名) 寝て居る最中、「」を離す。
ねこも「猫」(名) 寝て居る最中、「」を離す。
ねこも「猫」(名) 寝て居る最中、「」を離す。
ねこも「猫」(名) 寝て居る最中、「」を離す。
ねこも「猫」(名) 寝て居る最中、「」を離す。
ねこも「猫」(名) 寝て居る最中、「」を離す。
ねこも「猫」(名) 寝て居る最中、「」を離す。
ねこも「猫」(名) 寝て居る最中、「」を離す。

ねざき一ねすく

ねざき「根笹」(名) 笹の一種、根のよく蔓延して繁茂するもの。千里竹。
ねざし「音差」(名) 音の異なる。
ねざし「根差」(名) 根の異なる。
ねざす「根差」(名) 根の異なる。
ねざす「根差」(名) 根の異なる。
ねざす「根差」(名) 根の異なる。
ねざす「根差」(名) 根の異なる。
ねざす「根差」(名) 根の異なる。
ねざす「根差」(名) 根の異なる。
ねざす「根差」(名) 根の異なる。
ねざす「根差」(名) 根の異なる。

ねすく一ねずみ

ねすく「鼠」(名) 鼠の一種、鼠の目より長。
ねすのぼん「不寐番」(名) ねすのぼん。
ねすぼん「不寐番」(名) ねすのぼん。
ねすまひ「首鼠」(名) ねすのぼん。
ねすまひ「首鼠」(名) ねすのぼん。
ねすまひ「首鼠」(名) ねすのぼん。
ねすまひ「首鼠」(名) ねすのぼん。
ねすまひ「首鼠」(名) ねすのぼん。
ねすまひ「首鼠」(名) ねすのぼん。
ねすまひ「首鼠」(名) ねすのぼん。
ねすまひ「首鼠」(名) ねすのぼん。

ねすり一ねそび

ねすり「鼠捕」(名) ねすの捕り。
ねすり「鼠捕」(名) ねすの捕り。
ねすり「鼠捕」(名) ねすの捕り。
ねすり「鼠捕」(名) ねすの捕り。
ねすり「鼠捕」(名) ねすの捕り。
ねすり「鼠捕」(名) ねすの捕り。
ねすり「鼠捕」(名) ねすの捕り。
ねすり「鼠捕」(名) ねすの捕り。
ねすり「鼠捕」(名) ねすの捕り。
ねすり「鼠捕」(名) ねすの捕り。

ねた一ねぢ

ねた「根太」(名) 木の根の太い。
ねた「根太」(名) 木の根の太い。
ねた「根太」(名) 木の根の太い。
ねた「根太」(名) 木の根の太い。
ねた「根太」(名) 木の根の太い。
ねた「根太」(名) 木の根の太い。
ねた「根太」(名) 木の根の太い。
ねた「根太」(名) 木の根の太い。
ねた「根太」(名) 木の根の太い。
ねた「根太」(名) 木の根の太い。

ねぢ一ねぢ

ねぢ「根太」(名) 木の根の太い。
ねぢ「根太」(名) 木の根の太い。
ねぢ「根太」(名) 木の根の太い。
ねぢ「根太」(名) 木の根の太い。
ねぢ「根太」(名) 木の根の太い。
ねぢ「根太」(名) 木の根の太い。
ねぢ「根太」(名) 木の根の太い。
ねぢ「根太」(名) 木の根の太い。
ねぢ「根太」(名) 木の根の太い。
ねぢ「根太」(名) 木の根の太い。

のうしーのうあ

いざうの「農産製造」(名) 農産に多少の手数をかけて粗製品となす。即ち、麻茶・煙草などの製造の如きこれなり。――「ぶつ」(農産物)(名) 農産に同じ。

のうあーのうべ

農商工・水産・林野・鑛山・發明之匠・商標及地質等に關する事務を管理するもの。――「のうあよ」(能書)(名) 文字・巧(じ)に書くと又、其人能筆。

のうまーのがす

のうま「野馬」(名) 野飼ひの馬(草馬、牧馬)。――「のうまい」(能米)(名) くるごめ。

のかせーのせち

のかせ「野風」(名) 野に吹く風。――「のかはり」(野川)(名) 野中をながる、小川。

のせつーのけか

のせつ「野狐」(名) 野にすむ狐。――「のせつみ」(野並)(名) 次條に同じ。

のけくーのけん

のけく「野漆」(名) 樹「たかとうだい」の「のりれん」(暖簾)(名) 「のれん」に同じ。

のせいのせ

のせいのせ (名) 何気なく又は平氣にて進み出づるさまにいふ語。...

のせいのせ

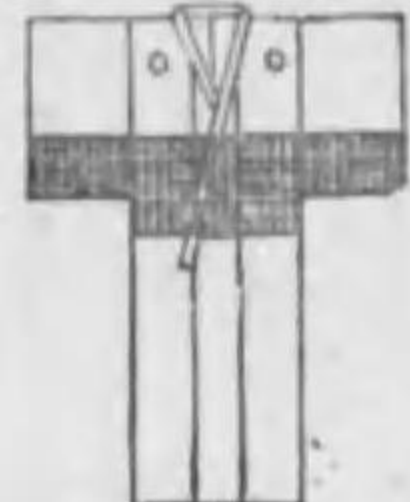
のせいのせ (名) 後世に傳はる。死後に及ぶ。...



〔三〕のせ

のせいのせ

のせいのせ (名) 地位を進ませ、身代をゆたかにす。...



〔め〕のせ

のせいのせ

のせいのせ (名) 厚き五分許に平く俵くしたる餅。これを切つて切餅とす。...

のせいのせ

のせいのせ (名) 前方に設けたる眼鏡より覗き見させるもの。...

のせいのせ

のせいのせ (名) しもがきて、さまぐにふしまるぶ、ぬたうつ。...

のぼせーのぼす

ひてのむし(し)けれど食すべからず
のふのけサ(納袈裟)名(佛)さまの
不用の切地(し)をもつて縫ひつくりたる袈裟、
のふろ(野風呂)名(野遊などに携へ行く茶湯
の風呂)
のべ(野邊)名(のほら、のら、のら、のら)はうわ
り、野邊、
野邊送(名)古昔は、主として、野邊に埋那
せし故にいふはうわり、野邊、
野邊送(名)前條に同じ。
のべ(野邊)名(のほら、のら、のら、のら)はうわ
り、野邊、
野邊送(名)古昔は、主として、野邊に埋那
せし故にいふはうわり、野邊、
野邊送(名)前條に同じ。

のぼせーのぼる

のぼせ(逆上)名(身氣常にながひて頭部腫す
る病氣、頭痛又は齒痛若しくは便秘等をもち、上
氣、
のぼせ(逆上)名(身氣常にながひて頭部腫す
る病氣、頭痛又は齒痛若しくは便秘等をもち、上
氣、
のぼせ(逆上)名(身氣常にながひて頭部腫す
る病氣、頭痛又は齒痛若しくは便秘等をもち、上
氣、

のぼすーのぼく

のぼす(野馬)名(野馬の馬、のうま、
のまめ(野豆)名(種)豆科に屬する草、山野に
自生す、葉は上昇す、葉はふぶきに似、小さくして
茶褐色を呈す、花は豆に似、淡紫色を呈し、穂状花
序をなす、
のぼす(野馬)名(野馬の馬、のうま、
のまめ(野豆)名(種)豆科に屬する草、山野に
自生す、葉は上昇す、葉はふぶきに似、小さくして
茶褐色を呈す、花は豆に似、淡紫色を呈し、穂状花
序をなす、

のねぬにな とてつちた そせすしき こけくきか ひえういあ
のねぬにな とてつちた そせすしき こけくきか ひえういあ
のねぬにな とてつちた そせすしき こけくきか ひえういあ
のねぬにな とてつちた そせすしき こけくきか ひえういあ

のみにーのみ

のみに(呑込)名(のみで喉に下すと、
のみに(呑込)名(のみで喉に下すと、
のみに(呑込)名(のみで喉に下すと、
のみに(呑込)名(のみで喉に下すと、

のみにーのみ

のみに(呑込)名(のみで喉に下すと、
のみに(呑込)名(のみで喉に下すと、
のみに(呑込)名(のみで喉に下すと、
のみに(呑込)名(のみで喉に下すと、

のみにーのみ

のみに(呑込)名(のみで喉に下すと、
のみに(呑込)名(のみで喉に下すと、
のみに(呑込)名(のみで喉に下すと、
のみに(呑込)名(のみで喉に下すと、

はいせーはいす

(はいせん) 瘵人(名) 不具の人。かたは。(はいせん) 陪臣(名) またもの、またげらひ。(はいせん) 陪審(名) 新設の審理に陪席する。(はいせん) 陪審官(名) 陪審する官吏。...

はいせーはいせ

比例を以て化合するとき、其比率は単一なる倍数を以て増加すといふと、例へば窒素と酸素とは、窒素一に對して、酸素の一・二・三・四・五との化合物を生ずるが如し。(はいせん) 掃蕩(名) 是はきずみの音便。胡椒油又は菜種油の油煙、膠比和して膠を製し、又塗料とし或は薬用ともす。(油煙、灰塵)...

はいせーはいだ

(はいせつ) 排泄(名) 内より外にもちいだすと。(はいせつ) 排泄物(名) 排泄せしむる廢棄物。其質を養へたる殘餘の不用物質を體外にもし出すと、例へば尿を排泄するが如きこれなり。(はいせつ) 排泄器(名) 動物體が排泄作用を営む器官、即ち腎臟・尿管の如きこれなり。さより排泄作用(名) 動物體が排泄を営む作用。(はいせつ) 廢絶(名) すたたりたゆると。...

はいだーはいた

(はいた) 煤體(名) 煤質の物體。(はいた) 佩刀(名) 刀をさぶると、又、むびたる刀。(はいた) 廢刀(名) 佩刀を廢止すると。(はいた) 配當(名) わけあつると、わりあつると。(はいた) 配當案(名) 破産管財人が破産財團の配當を行ふために調製したる書面、破産主任官の認可署名を要するもの。...

はいだーはいて

(はいた) 膝甲(名) 鹿種(かぶ)の音便。鎖の附屬具、腰より垂れて股・膝を護る。(はいた) 蘭蒔(名) 蘭のいパイタラ、えふ、(貝多羅葉) (名) 梵語、ゴイ、即ち葉の義。(蘭) 多羅蘭の葉、インドにては、針を以てこれに經文を刺りつく。(けばなし)...



はいてーはいね

きたまひたる皇帝。(はいて) 拜呈(名) 贈るとの敬語。(はいて) 廢朝(名) 君主の朝政に臨み給はざると、(廢朝)。(はいて) 敗北(名) まげとなるをいふ。(はいて) 廢典(名) やめてとりのぞくと。(はいて) 拜殿(名) きたれたる儀式。(はいて) 賣店(名) 拜殿を行ふ神社の賣店。(はいて) 敗天公(名) たんでん、炭田に同じ。(はいて) 悖德(名) 道徳にたがひものと。...

はら—いはらえ

つと—けいざつ「保安警察」(名)「法」ち
あんけいざつ「治安警察」に同じ。——「でうれ
い」(「保安條例」(名)明治二十年、在野の志
士が都下に集まり時の政府を攻撃せるに際して登
布せられたる有名の條例、幾多の志士はこれに照し
て帝都の三里以外に放逐せられたり。——「りん
「保安林」(名)公益のために特別の保護制限ある
「はら—い」(「胞衣」(名)えな。——「森林
「はら—い」(「芳意」(名)他人の親切なること、あざ
しの敬稱。
「はら—い」(「保有」(名)たもつと、もつと。
「はら—い」(「包有」(名)つ、みもつと。
「はら—い」(「亡友」(名)なき人となりし友人。
「はら—い」(「忘憂」(名)うさをわする、と。
うさはらし。
「はら—い」(「邪西園」(名)「天」天頂を通
過して且つ子午線に直交する大園。
「はら—い」(「保育」(名)小児を保護し養育す
ると、まもりそだつると。——「ちやう」(「保育
場」(名)小児を保育する所。
「はら—い」(「放逸」(名)さま、にたのしむと。
はし、い、に、あ、そ、ぶ、と、放、佚、
「はら—い」(「暴淫」(名)洪水などにはかに
あふる、と。
「はら—い」(「暴淫」(名)過度に房事を行ふと。
「はら—い」(「暴飲」(名)過度に酒を飲むと。
「はら—い」(「暴雨」(名)にはかあめ。——「はら
「はら—い」(「胞衣」(名)えな。——「きあめ。
「はら—い」(「芳吟」(名)他人の詩歌の敬稱。
「はら—い」(「泡影」(名)水のあわとも、影
と、轉じて、はかなき物事にいふ語。

はらえ—ばりか

「はら—えん」(「砲煙」(名)砲發のけむり。
「はら—れん」(「報恩」(名)恩に報ひゆると。——
か、ら、の、こ「報恩講」(名)一向宗にて、陰曆十一月
二十二日より二十八日まで行ふ佛事、願經又は法談
するもの。
「はら—か」(「邦家」(名)くに、國家。
「はら—か」(「放下」(名)なげすつると、すてお
く、と。——「あ、る、す、と、く、だ、す、と、。——「は、ら、か、ソ、ウ」の
略言。
「はら—か」(「放歌」(名)街上などにて、聲たかく
「はら—か」(「砲架」(名)砲身をのせておく臺。
「はら—か」(「寶駕」(名)天子のありのりもの。
「はら—か」(「萌芽」(名)芽をさす、又、ささ
したる芽。——「物事のきざし。
「はら—か」(「寶蓋」(名)てんがい。
「はら—か」(「妨害」(名)さまたげ、邪魔。
「はら—か」(「方解石」(名)「鐘」はうらげ
ふ、く、に、同、じ。
「はら—か」(「方向」(名)むき、かた。——「め、あ
て、あ、て、。——「身のおちつけ方、身のふりかた。
「はら—か」(「放校」(名)不都合の所行ありたる
學生を學校より放逐する、と。
「はら—か」(「芳香」(名)よきかをり、このまし
きは、は、ひ。
「はら—か」(「滂沱」(名)水面のひろきと。
「はら—か」(「咆哮」(名)まげぶと、たける、と。
「はら—か」(「咆號」(名)前條に同じ。
「はら—か」(「暴行」(名)亂暴なる所行、手あ
ち、わ、だ、。——「法」暴力を他人の身體に加ふる、と。
「はら—か」(「洋沓」(名)水面のひろくしてはる
かなる、と。

はらか—はらが

「はら—か」(「わがふぶつ」(「芳香屬
化合物」(名)「化」芳香を有する化合物、ベンゼ
ンと稱する一の炭化水素のすべての誘導體なり。
「はら—か」(「方書」(名)方法を記したるもの。
「はら—か」(「放學」(名)規定の時間を終へて學
生を學校よりかへす、と。
「はら—か」(「方角」(名)四方四角の義、方
位に同じ。——「方向、進路。——「て、だ、て、手、段、
「はら—か」(「安覺」(名)「まうかく」に同じ。
「はら—か」(「暴客」(名)あばれもの、亂暴人。
——「盜賊、外寇。
「はら—か」(「放下師」(名)放下僧。
「はら—か」(「放下僧」(名)田樂の頭、鴉鼓、
さ、ち、等、の、鑼、子、を、用、ひ、歌、を、う、た、ひ、舞、を、ま、ふ、も、の、
又、其、わ、だ、を、な、す、僧、侶、
「はら—か」(「保甲」(名)土地の安寧を保つため
に、其、住、民、を、し、て、一、定、の、組、合、を、設、け、適、宜、の、防、禦、に
あ、た、ら、し、む、る、制、度、
「はら—か」(「抱合」(名)「くわがふ」に化合に同
じ。
「はら—か」(「寶鑑」(名)よきか、み、た、ふ、と、き
「はら—か」(「芳翰」(名)他人の手紙の敬稱。
「はら—か」(「砲艦」(名)船體小さくして噴水浸
く、比較的大なる主砲を備ふる軍艦、水浸き所に於て
利用せられ、海岸・河上の攻撃・防禦等に最も必要な
るもの。
「はら—か」(「砲眼」(名)砲丸をうち出すため城
壁などに設けたる孔。
「はら—か」(「包含」(名)つ、み、ふ、く、む、と、ふ、く
み、も、つ、と。
「はら—か」(「芳顔」(名)うつくしきかほ。

はらか—はらき

「はら—かん」(「坊間」(名)まちなか、市中。「と
「はら—かん」(「暴悍」(名)あらく、しくたけき
「はら—かん」(「冒寒」(名)寒氣をおかすと。
「はら—かん」(「防寒」(名)寒氣をふせぐと。——
い「防寒衣」(名)防寒のため特別に仕立てたる
衣。——「む「防寒具」(名)防寒の必要具。
「はら—き」(「帯」(名)「ははき」の帯。——「腰衣を指
(「ふ、具、(「帯、)——「腰衣の差別なく色を調する、と。
「はら—き」(「拋棄」(名)なげうちすつると、す
ておくと、(「放棄」(名)其ま、に、し、て、關、係、を、せ、と、自
家の權利をすて、行使せざると。
「はら—き」(「芳紀」(名)年わかき美人の上はひ。
「はら—き」(「寶器」(名)たからものうつは、たから
もの。
「はら—き」(「邦讖」(名)帝京に近接したる天子の
「はら—き」(「邦規」(名)國家ののり。
「はら—き」(「方技」(名)わざ、ま、ゆ、つ、
「はら—き」(「耄期」(名)八九十歳のとき、おひば
ら、と、き、
「はら—き」(「耄耆」(名)としより、老人。——「と
しより、お、い、は、ら、と、
「はら—き」(「妄議」(名)みだりなる議論、すざみち
にたがひたる議論。
「はら—き」(「蒔草」(名)「種」種科に屬する
草、葉は細長にして全邊なり、花は苞を有せず小形
白色にして夏の頃開く、葉は食用に供せられ、莖枝
は乾燥してくさばうきを製する料とせらる、はは
き、に、は、く、さ、
「はら—き」(「帯袖」(名)毛皮にて作りたる尻
鞆、草帯に似たるが故に名づく。

はらき—ばりき

「はら—き」(「忙急」(名)いそがしきと。「(「
「はら—き」(「帝目」(名)地面をはきたる帯の痕
「はら—き」(「方警」(名)一種の樂器、方形
の聲の響。
「はら—き」(「邦境」(名)くにのさかひ、く
に、さ、か、ひ、(「邦、境、
「はら—き」(「包莖」(名)
かはかぶりの陰莖。
「はら—き」(「方桁」(名)の
屋根の細方、棟木の兩端より下
棟(「はら」)を覆ふの四隅まで垂れ
さがるもの、(「寶形、
「はら—き」(「放却」(名)うちすておくと、其
ま、に、な、し、お、く、と、
「はら—き」(「忘却」(名)わする、と、失念。
「はら—き」(「暴虐」(名)むごく、あ、た、げ、る
と、無理非道にくるしむると。
「はら—き」(「暴動」(名)一機
なるふるまひ。
「はら—き」(「妄舉」(名)みだりなるふるまひ。
思慮なき所行。
「はら—き」(「防禦」(名)攻撃をふせぎまもる
と、ふ、せ、ぎ、ま、も、る、と、ふ、せ、ぎ、と、。——「ふ、せ、ぎ、た、め、の
設備。——「こ、り、お、(「防禦工事」(名)敵の進軍
をふせぐ設備の工事。——「す、あ、ら、い、(「防禦水
雷」(名)來寇する敵艦を轟沈するため、港灣など
の海中に敷設し、水雷、陸上より狙(「はら」)を定めて
爆發せしむる装置を視察といひ、敵艦の衝突するに
よって爆發する装置を觸發といふ。——「せん



[うやぎうは]

はらき—ばりく

「防禦線」(名)防禦する線路。——「お、つ「防禦
物」(名)防禦の用となるもの。「する、た、ま、
「はら—き」(「寶玉」(名)たからとして珍重
「はら—き」(「芳吟」(名)他人の詩作の敬稱。
「はら—き」(「方隅」(名)四方と四隅と、方位。
「はら—き」(「牛靴」(名)古昔、使用したる頭の
短き靴。
「はら—き」(「放火」(名)火をつくると、つけ、
「はら—き」(「砲火」(名)砲發の火。——「を、ま
じ、ふ、(「交、砲、火、)——「砲、發、を、ひ、ら、く、に、い、ふ、
「はら—き」(「放課」(名)定時間の課程をはる
と。——「お、か、ん「放課時間」(名)放課後の
休憩時間。
「はら—き」(「方外」(名)昔時、僧侶・醫師・畫
師などの長袖者流の稱。
「はら—き」(「望外」(名)こひねがひのぞむ
所より以上の好ましきと。
「はら—き」(「放曠」(名)ましまりなきと、ま
め、く、り、な、き、と、
「はら—き」(「彷徨」(名)さまよふと、ゆき
つ、も、ど、り、つ、と、と、う、あ、つ、と、と、
「はら—き」(「膀胱」(名)排泄器の一、腎臓
より輸送する尿を蓄ふる薄膜の袋、これより尿
道を通じて尿を體外に排泄す、小便ぶくろ、ゆばり
ぶくろ。
「はら—き」(「包括」(名)あはせて、一つに
い、さ、ん、(「包括財產」(名)「法」すべてをひき
ら、め、て、指、示、し、た、る、財、産、特、定、財、産、の、對、
「はら—き」(「防火布」(名)「くわくわんぶ」
(「火、災、布、)に、同、じ、。

はりあーはりあ

(はりあ) [放恣] (名) はしいま、きま、(放恣)
(はりあ) [芳志] (名) 他人の深切なること、あざ
(はりあ) [褒詞] (名) ほめた、(たることば)
(はりあ) [方士] (名) 神仙の術を修むる人道
(はりあ) [褒辭] (名) 褒辭に似し
(はりあ) [寶麗] (名) 天子の御印
(はりあ) [焙] (名) はうずると、いと
(はりあ) [防止] (名) ふせぎとむむと
(はりあ) [髦士] (名) すぐれひいてたる人士
(はりあ) [帽子] (名) 頭上に被るもの、
(はりあ) [帽子] (名) すべて物の頭部にかぶ
(はりあ) [報酬] (名) 報酬
(はりあ) [亡子] (名) 死にたること、
(はりあ) [亡姉] (名) 死にたるあね
(はりあ) [傍視] (名) そばにて見てゐると、
(はりあ) [紡絲] (名) いとをつむむと
(はりあ) [芒刺] (名) とげ、いばらと
(はりあ) [暴死] (名) 急に死ぬること、(頓死)
(はりあ) [茅茨] (名) ちがやといばらと
(はりあ) [勝示] (名) ぶだにふるして示す
(はりあ) [報酬] (名) 報酬
(はりあ) [報酬] (名) 報酬
(はりあ) [報酬] (名) 報酬

はりあーはりあ

(はりあ) [報警] (名) うらみをむくゆること、
(はりあ) [方舟] (名) 二つならべあはせたる
(はりあ) [防臭] (名) 臭氣をよせと、臭氣
(はりあ) [防臭劑] (名) 防臭に使用
(はりあ) [防臭劑] (名) 防臭に使用
(はりあ) [防臭劑] (名) 防臭に使用
(はりあ) [防臭劑] (名) 防臭に使用
(はりあ) [防臭劑] (名) 防臭に使用
(はりあ) [防臭劑] (名) 防臭に使用
(はりあ) [防臭劑] (名) 防臭に使用
(はりあ) [防臭劑] (名) 防臭に使用
(はりあ) [防臭劑] (名) 防臭に使用

はりあーはりあ

(はりあ) [報酬] (名) 報酬
(はりあ) [報酬] (名) 報酬
(はりあ) [報酬] (名) 報酬
(はりあ) [報酬] (名) 報酬
(はりあ) [報酬] (名) 報酬
(はりあ) [報酬] (名) 報酬
(はりあ) [報酬] (名) 報酬
(はりあ) [報酬] (名) 報酬
(はりあ) [報酬] (名) 報酬
(はりあ) [報酬] (名) 報酬

はりあーはりあ

(はりあ) [放生] (名) 生物をなまにが
(はりあ) [報酬] (名) 報酬
(はりあ) [報酬] (名) 報酬
(はりあ) [報酬] (名) 報酬
(はりあ) [報酬] (名) 報酬
(はりあ) [報酬] (名) 報酬
(はりあ) [報酬] (名) 報酬
(はりあ) [報酬] (名) 報酬
(はりあ) [報酬] (名) 報酬
(はりあ) [報酬] (名) 報酬

はりあーはりあ

(はりあ) [寶珠] (名) 寶の珠、たから、
(はりあ) [砲手] (名) 火砲を發射する事をつ
(はりあ) [保守] (名) はまゆに同じ、
(はりあ) [保壽] (名) なかく壽命をたもつ
(はりあ) [芒種] (名) 二十四氣の一、陽曆六
(はりあ) [放縱] (名) きま、はしいま、
(はりあ) [砲銃] (名) 大砲と小銃と、
(はりあ) [寶珠頭] (名) きばらあゆ、
(はりあ) [方術] (名) てだて、まかた、
(はりあ) [砲術] (名) 火砲を運用發射す
(はりあ) [寶珠玉]
(はりあ) [芳春] (名) 花ざかりの春、
(はりあ) [芳春] (名) 花ざかりの春、
(はりあ) [芳春] (名) 花ざかりの春、
(はりあ) [芳春] (名) 花ざかりの春、
(はりあ) [芳春] (名) 花ざかりの春、
(はりあ) [芳春] (名) 花ざかりの春、
(はりあ) [芳春] (名) 花ざかりの春、
(はりあ) [芳春] (名) 花ざかりの春、
(はりあ) [芳春] (名) 花ざかりの春、
(はりあ) [芳春] (名) 花ざかりの春、



はりあーはりあ

(はりあ) [放縱] (名) はうあゆうに同
(はりあ) [冒稱] (名) 他家の姓を名乗る
(はりあ) [飽食] (名) 腹に足るほど食
(はりあ) [暴食] (名) おはぐひ、あらぐひ、
(はりあ) [望蜀] (名) (後漢の光武帝が、
(はりあ) [放恣] (名) はしいま、きま、
(はりあ) [放恣] (名) はしいま、きま、
(はりあ) [放恣] (名) はしいま、きま、
(はりあ) [放恣] (名) はしいま、きま、
(はりあ) [放恣] (名) はしいま、きま、
(はりあ) [放恣] (名) はしいま、きま、
(はりあ) [放恣] (名) はしいま、きま、
(はりあ) [放恣] (名) はしいま、きま、
(はりあ) [放恣] (名) はしいま、きま、
(はりあ) [放恣] (名) はしいま、きま、

ばりあーばりす

(ばりあん) [妄信] (名) みだりに信ずる事。
(ばりあん) [亡親] (名) 死にたる父母。
(ばりあん) [亡臣] (名) 自國を脱走して他國に
ある臣下。亡命の臣。
++(ばりあん) [防人] (名) さきもり。
(ばりあん) [傍人] (名) そばにゐる人。かたは
ちかひる人。
(ばりあん) [暴人] (名) あばれもの。あら
(ばりあん) [報身佛] (名) 佛報身の佛。
即ち彌陀如来の類。
++(ばりあん) [報身] (名) 報。そしる。
(ばりあん) [報] (他) さむ。むく。ゆ。
かへす。③知らず。告ぐ。
(ばりあん) [焙] (他) さむ。火氣を興へ
て温氣を去る。いる。茶を。④
(ばりあん) [坊主] (名) 坊の主僧。一個寺の住
職。⑤僧侶。法師。⑥剃髪したる人。頭をまらめた
るもの。⑦昔時、武家に事かへて、茶湯其他の雑事
に使役せられ、常に剃髪してありし身分。剃しきも
の。⑧剃髪したる頭。⑨頭部の毛無きもの。
頭部の毛(げ)たるもの。⑩山。⑪筆。⑫幼き男
子の賤稱。⑬がにくけりやケサまで
にくい。其人を惡む情の其人に關聯したるすべ
の事に及ぶにいふ。
(ばりあん) [忘] (他) さむ。わする。故
郷ばうじ難し。
(ばりあん) [坊主頭] (名) 剃髪したるあ
(ばりあん) [方敷] (名) 二乗の敷。
(ばりあん) [坊主落] (名) 還俗すると。
(ばりあん) [坊主禿] (名) 昔時、遊女につ
かはる、幼き禿の剃髪してありしもの。

ばりすーばりせ

(ばりすくき) [坊主鼻] (形) 二坊
主めきたり。佛門めきたり。
(ばりすくき) [坊主筆] (名) ちびふで。
(ばりすくき) [坊主夢] (名) ①夢の變。果
實の外殼に巴(せ)なきもの。
(ばりすくき) [坊主持] (名) 歌人同行して交
代に荷物を持ち行くとき、路に坊主に出會ふ度毎
に、持手の(せ)はると。
(ばりすくき) [坊主山] (名) はげ山。
(ばりすくき) [坊主] (名) 縁をつむぐつむ。
(ばりすくき) [方錐] (名) よつめざり。――け
い [方錐形] (名) ①數頂點を共有せる四平面と
他の一平面とを以て圍まれたる立體。
(ばりすくき) [防水] (名) 水をよせると。又、水を
よせると。――ふ [防水布] (名) コムなど
を引きて水のよせぬやうに製したる布。
(ばりすくき) [方寸] (名) 一寸四方。②列子
の吾見子之心。之地處矣の語に出づ。胸中衷心
(ばりすくき) [方正] (名) 正しきと。みだれざる
と。よこしまならざると。
(ばりすくき) [邦制] (名) 國家の制度。
(ばりすくき) [邦聲] (名) 國家の敬稱。
(ばりすくき) [邦聲] (名) かんばしきはまれ。
よき評判。③他人の名の敬稱。
(ばりすくき) [砲聲] (名) 砲發の音。
(ばりすくき) [暴政] (名) 暴虐なる政事。苛酷な
(ばりすくき) [坊正] (名) 町役人。〔る政令。
(ばりすくき) [保稅倉庫] (名) はせ
いさうこに同じ。
(ばりすくき) [世硝] (名) ①硫酸。ナトリウ
(ばりすくき) [寶石] (名) 世人の珍重する美麗な
る寶石。琢磨して裝飾用とするもの。金剛石。鋼玉

ばりせーばりそ

(ばりせき) [紡績] (名) ①綿をつむぎて絲とな
す。②ばうせきといふ略言。――いざ [紡
績] (名) 紡績器械にて製したる絲。――いざ [紡
績器械] (名) 綿を繰り且つむぎて絲を
製する器械。
(ばりせつ) [妄說] (名) 無根の說。虚偽の說。
(ばりせつ) [暴說] (名) 出放題の說。又、道理な
き說。
(ばりせつ) [傍接圓] (名) ①多角形の
一邊及これに隣る二邊に切し且つ全く其多角形の
外にある圓。
(ばりせん) [砲戰] (名) 砲火をまじへて戦ふ
と。大砲のうちあひ。
(ばりせん) [砲船] (名) 大砲を載せて敵を
(ばりせん) [寶前] (名) 神佛の前ひらまへ。
(ばりせん) [保全] (名) たもちま。たうする。
安全にあらしむると。はぜん。
(ばりせん) [防戰] (名) ふせきた。かふと。
(ばりせん) [茫然] (名) 副。あつじにとられ
たるさまにいふ。②きぬけしたるさまにいふ。③
④ひろくとほさまにいふ。⑤眼界のあきらか
ならざるさまにいふ。
(ばりせん) [屍然] (名) 副。ひるがりてふとき
さまにいふ。②。
(ばりそ) [砒素] (名) ①化金屬の一。褐色の粉末
にして、天然には砒酸又は砒砂となりて産出す。空
氣中にて強く熱するときは、酸素及窒素と化合す。
(ばりそ) [寶祥] (名) 帝王の位。又、帝王の齡。
「萬歳」。

はりそーはりた

(はりそ) [苞苴] (名) ほうそよに同じ。
(はりそ) [妨害抗辯] (名) [法原
告の訴訟が訴訟の必要條件を闕如すといふを理由
として、被告が其辯論をこぼはむと。
(はりそ) [方則] (名) 法。かたのり。
(はりそ) [邪俗] (名) くじの風俗。くじのな
らし。
++(はりそ) [放俗] (名) 下品なると。凡俗なると。
品格なきと。人多く見る時なんすきたるもの着
たるは。に疑ゆる。
(はりそ) [亡息] (名) 死にたるむすこ。
(はりそ) [保存] (名) ぼん。に同じ。
(はりそ) [亡孫] (名) 死にたるまご。
(はりそ) [亡損] (名) せん。損害。
(はりそ) [端唄] (名) 文句あまり長からず、多く二
上りの調にてうたふ俗謡。長唄の對。
(はりそ) [滂沱] (名) ①雨の勢つよくふると。
②涙の止めどなく流ると。
(はりそ) [縋帶] (名) 傷口又は腫物などにま
きつくる木綿の布。③砲兵の障。
(はりそ) [砲隊] (名) 火砲を使用する軍隊。
(はりそ) [砲臺] (名) 火砲をすゑむく土石
の築造物。だいば。
(はりそ) [傍題] (名) 和歌にて題外の無用の
ものを(せ)みよふると。
(はりそ) [放題] (名) 放題。動詞に(せ)て
語となし、自由に行ふ意を表する語。出。――
(はりそ) [尻大] (名) ひるがりてふときと。
(はりそ) [縋帶液] (名) 縋帶の代用に
塗抹する液。
++(はりそ) [縛紙] (名) ばくたくの音便。

はりたーはりち

(はりた) [放蕩] (名) 酒色に耽(た)りて身持悪
しきと。放埒。
(はりた) [報道] (名) つげ。まらせ。報告。報
(はりた) [寶鐸] (名) ほうたつ。に同じ。
(はりた) [暴奪] (名) 暴力を以て奪ひとると。
(はりた) [方立] (名) 根
柱の(せ)門柱の兩傍にたて
、風(せ)を若くする木。②まか
た。ま。くみ。
(はりた) [報答] (名) ①
こたへ。へん。あ。②むくい。かへし。
(はりた) [砲塔] (名) 鋼鐵の砲臺を設け一門
又は二門の巨砲を備へおく小高き所。
(はりた) [寶塔] (名) 寺院の塔の敬稱。
(はりた) [放膽] (名) 思ひきつてなすと。思
懼なくものなすと。――ふん [放膽文] (名)
漢文にて、思懼なく思想を吐き、鋒銳をあらはし聲
色をばげまし、洗練婉曲に缺くる所ありとも、筆路
の窘東せざるやうにかく文の稱。初學者の學ぶべき
ものとせり。
(はりた) [砲彈] (名) 火砲の彈丸。
(はりた) [放談] (名) 出放題のものがたり。
思懼なきものがたり。
(はりた) [妄誕] (名) うそ。いつはり。
(はりた) [妄談] (名) 根拠なきはなし。
(はりた) [報知] (名) ちらせ。報告。通知。――
かん [報知艦] (名) 敵の動靜を通知し又は軍の
命令を傳達する等の任務を帯ぶる軍艦。「もつと。
(はりち) [保持] (名) たもちて失はざると。た
(はりち) [方竹] (名) ①四方竹に同じ。
[[(-)てだうは]

はりちーばりち

(はりち) [放逐] (名) 逐(し)ひ遣(は)ると。む
ひだすと。
(はりち) [羽扇] (名) 鳥の羽にて製したる
扇。
(はりち) [庖丁] (名) ①食膳を調理する
人。料理する人。②食膳の調理。料理。割烹。③鍋の
人。④はうちやうがたな(の)略言。
(はりち) [方丈] (名) ①一丈四方。②寺
院にて、住持のあつる所。③轉じて、寺院の住持。
(はりち) [傍聽] (名) 演說又は討論など
を其場にありて(せ)くと。
(はりち) [膨脹] (名) ①ふとりひろがる
と。ふくらむと。②發展して増大する。のびます
と。③(國勢の)――。④(理)物體が熱に食(は)ひて其大
きを増すと。
(はりち) [暴漲] (名) 水の俄にみなざる
(はりち) [庖丁刀] (名) ももに
料理に使用する刃物の稱。庖刀。屠刀。
(はりち) [膨脹係數] (名)
①物體が溫度一度昇る毎に増加する體積と原體
積との比。又物體が溫度一度昇る毎に増加する長さ
と原長の比。前者を體膨脹係數といひ、後者
を線膨脹係數といふ。
(はりち) [傍聽券] (名) 入場して
傍聽することを許す切符。
(はりち) [庖丁師] (名) 料理人。
(はりち) [傍聽者] (名) 傍聽する
もの。
(はりち) [傍聽席] (名) 傍聽者の
(はりち) [庖丁人] (名) 料理人。
(はりち) [傍聽人] (名) 傍聽する

はらちーはらで

はらちやくく 寶鐸(名) 大形の風鈴、堂塔など。
はらちちゆら 庖厨(名) くりや、だいどころ。
はらちちゆら 方柱(名) 方形のはしら。
はらちちん 方陣(名) 兵士を方形に排列する陣形。
はらちちん 芳塵(名) 花見の場所などのちり。
はらちつたて 羽撃(白、た四) 翼を打ちて音をなす。はたき。
はらちつたて 方圖(名) 手だめ、かざり、際限、上を見ればが無い。
はらちて 場打(名) 其場の有機にうたれて勇氣。
はらちてい 保定(名) たもち定むる。
はらちてい 亡弟(名) 死にたる弟。
はらちてい 公式(名) 死にたる弟。
はらちてい 公式(名) 死にたる弟。
はらちてい 公式(名) 死にたる弟。
はらちてい 公式(名) 死にたる弟。
はらちてい 公式(名) 死にたる弟。
はらちてい 公式(名) 死にたる弟。
はらちてい 公式(名) 死にたる弟。
はらちてい 公式(名) 死にたる弟。
はらちてい 公式(名) 死にたる弟。

はらでーはらさ

はらでん 報電(名) まらせの電報。
はらでん 暴徒(名) あらしそこなふと。
はらでん 邦土(名) くに、國土。
はらでん 報身佛(名) 報身佛の受用せる淨。
はらでん 暴徒(名) 暴徒をなす徒、兇徒。
はらでん 暴怒(名) はげしくいかる。
はらでん 砲銅(名) 化銅と銅との合金。
はらでん 冒頭(名) 文章のかきむこし。
はらでん 暴動(名) 急にねだんの高くなる。
はらでん 暴動(名) 急にねだんの高くなる。
はらでん 暴動(名) 急にねだんの高くなる。
はらでん 暴動(名) 急にねだんの高くなる。
はらでん 暴動(名) 急にねだんの高くなる。
はらでん 暴動(名) 急にねだんの高くなる。
はらでん 暴動(名) 急にねだんの高くなる。
はらでん 暴動(名) 急にねだんの高くなる。
はらでん 暴動(名) 急にねだんの高くなる。
はらでん 暴動(名) 急にねだんの高くなる。

はらにーはらは

はらにん 放任(名) 其事物のなりゆきに打ちまかせ置きて、干渉せざること。
はらにん 主義(名) 其事物の自由放任して取て干渉せざること。
はらにん 冒認(名) 自己に處分権なき他人の所有物を、自己に處分権あるが如く装ふ。
はらにん 冒認(名) 自己に處分権なき他人の所有物を、自己に處分権あるが如く装ふ。
はらにん 冒認(名) 自己に處分権なき他人の所有物を、自己に處分権あるが如く装ふ。
はらにん 冒認(名) 自己に處分権なき他人の所有物を、自己に處分権あるが如く装ふ。
はらにん 冒認(名) 自己に處分権なき他人の所有物を、自己に處分権あるが如く装ふ。
はらにん 冒認(名) 自己に處分権なき他人の所有物を、自己に處分権あるが如く装ふ。
はらにん 冒認(名) 自己に處分権なき他人の所有物を、自己に處分権あるが如く装ふ。
はらにん 冒認(名) 自己に處分権なき他人の所有物を、自己に處分権あるが如く装ふ。

はらばーはらふ

はらばく 茫漠(名) ぼつとしてとりとめのなきと。
はらばく 茫漠(名) ぼつとしてとりとめのなきと。
はらばく 茫漠(名) ぼつとしてとりとめのなきと。
はらばく 茫漠(名) ぼつとしてとりとめのなきと。
はらばく 茫漠(名) ぼつとしてとりとめのなきと。
はらばく 茫漠(名) ぼつとしてとりとめのなきと。
はらばく 茫漠(名) ぼつとしてとりとめのなきと。
はらばく 茫漠(名) ぼつとしてとりとめのなきと。
はらばく 茫漠(名) ぼつとしてとりとめのなきと。
はらばく 茫漠(名) ぼつとしてとりとめのなきと。

はらふーはらへ

はらふく 防備(名) 防禦の準備、ふせぎのそ。
はらふく 防備(名) 防禦の準備、ふせぎのそ。
はらふく 防備(名) 防禦の準備、ふせぎのそ。
はらふく 防備(名) 防禦の準備、ふせぎのそ。
はらふく 防備(名) 防禦の準備、ふせぎのそ。
はらふく 防備(名) 防禦の準備、ふせぎのそ。
はらふく 防備(名) 防禦の準備、ふせぎのそ。
はらふく 防備(名) 防禦の準備、ふせぎのそ。
はらふく 防備(名) 防禦の準備、ふせぎのそ。
はらふく 防備(名) 防禦の準備、ふせぎのそ。

はらへーはらむ

はらへん 褒貶(名) 褒(ま)むると貶(な)す。
はらへん 褒貶(名) 褒(ま)むると貶(な)す。
はらへん 褒貶(名) 褒(ま)むると貶(な)す。
はらへん 褒貶(名) 褒(ま)むると貶(な)す。
はらへん 褒貶(名) 褒(ま)むると貶(な)す。
はらへん 褒貶(名) 褒(ま)むると貶(な)す。
はらへん 褒貶(名) 褒(ま)むると貶(な)す。
はらへん 褒貶(名) 褒(ま)むると貶(な)す。
はらへん 褒貶(名) 褒(ま)むると貶(な)す。
はらへん 褒貶(名) 褒(ま)むると貶(な)す。

はかり—はがす

はかり(一)「飛行」(名) はひ行く。
はが(一)「馬鹿」(名) (一)「馬鹿」(名) 馬鹿。
はが(一)「葉書」(名) 紙切など記すの書。
はが(一)「葉書」(名) 紙切など記すの書。
はが(一)「破格」(名) 格に外(る)と。
はが(一)「破格」(名) 格に外(る)と。
はが(一)「破格」(名) 格に外(る)と。

はかす—はかど

はかす(一)「魅」(他、四) 迷はしたばかる。
はかせ(一)「博士」(名) 古昔、大僧及陰陽寮など。
はかせ(一)「博士」(名) 古昔、大僧及陰陽寮など。
はかせ(一)「博士」(名) 古昔、大僧及陰陽寮など。
はかせ(一)「博士」(名) 古昔、大僧及陰陽寮など。

はかぬ—はかひ

はかぬ(一)「果無事」(名) はかなく。
はかぬ(一)「果無事」(名) はかなく。
はかぬ(一)「果無事」(名) はかなく。
はかぬ(一)「果無事」(名) はかなく。

はがへ—はから

はがへ(一)「羽替」(名) 鳥の羽のぬけかはると。
はがへ(一)「葉替」(名) 葉の生えかはると。
はが(一)「袴」(名) 袴。
はが(一)「袴」(名) 袴。
はが(一)「袴」(名) 袴。

はから—はかり

はから(一)「計」(名) はからふと。
はから(一)「計」(名) はからふと。
はから(一)「計」(名) はからふと。
はから(一)「計」(名) はからふと。

はかり—はき

はかり(一)「秤屋」(名) はかりを製造又は販賣す。
はかり(一)「秤屋」(名) はかりを製造又は販賣す。
はかり(一)「秤屋」(名) はかりを製造又は販賣す。
はかり(一)「秤屋」(名) はかりを製造又は販賣す。

はきーはきた

はき(脛)一名 下肢の膝より下にしてくるぶしより上なる部分の稱。むかふずね、すね、(股脛、腿)...

はきたーはきれ

はきた(副) 掃溜(名) 塵芥の捨場。ごみため。はきた(副) あきらかに、さだかに、はつきりと...

はきーはく

はき(伯)一名 五等爵の一、侯の下にして子の上なるもの。古昔、神祇官の長官。をさ、かしら...

は(く) 矢を見て矢を。は(く) 接(他、か四) 接合はす。つまりあはす。つぎあはす。つぎ、つぎ。

は(く) 鬚(名) 支那にて想像上の獣、象の鼻の目の牛の尾虎の脚にして全體は鹿に似たるもの。悪夢を食ふと云へこれが像を置けば邪氣をはらふといふ(類)。

は(く) うち(箔打)一名 箔をうちのばすと。又、其は(く) うち(薄打)一名 ばくち(に同じ)。

は(く) うち(薄打)一名 ばくち(に同じ)。「人」は(く) うち(薄打)一名 運命のあしきと。まはりあはせのあしきと。

は(く) か(たり)一名 薄荷糖(名) 一種の菓子、砂糖を固めてつくり、薄荷の香をつけたるもの。

は(く) か(たり)一名 薄荷糖(名) 一種の菓子、砂糖を固めてつくり、薄荷の香をつけたるもの。は(く) か(たり)一名 薄荷糖(名) 一種の菓子、砂糖を固めてつくり、薄荷の香をつけたるもの。

はくーはくち

はくちーはくか

はくかーはくき

はくくーはくき

銀何枚と呼びたり。銀子。
(はくく)「ハッ」(白駒) (名) ①あまのこま。②(莊子の語に出づ)光陰の経過のほやきをたとへいふ語。つきひ。――「はくき」をす。白駒過隙。光陰の忽ちに経過するに似ゆ。

はくきーはくお

(はくき)「薄才」 (名) 才智のすくなきと。
(はくき)「博殺」 (名) 空軍にてうちこころすと。
(はくき)「駁雜」 (名) いりまじりたるを。純粹ならざると。

はくおーはくす

(はくお)「白紙」 (名) ①あらかみ。②「一枚」。③唐紙の一種。色白く、薄くして脆し、書畫用とす。
(はくお)「白紙」 (名) ①あらかみ。②「一枚」。③唐紙の一種。色白く、薄くして脆し、書畫用とす。

はくすーはくた

(はくす)「精砂」 (名) 粉の粉末。
(はくす)「白濁」 (名) ①「白濁」。②「白濁」。③「白濁」。④「白濁」。⑤「白濁」。⑥「白濁」。⑦「白濁」。⑧「白濁」。⑨「白濁」。⑩「白濁」。⑪「白濁」。⑫「白濁」。⑬「白濁」。⑭「白濁」。⑮「白濁」。⑯「白濁」。⑰「白濁」。⑱「白濁」。⑲「白濁」。⑳「白濁」。㉑「白濁」。㉒「白濁」。㉓「白濁」。㉔「白濁」。㉕「白濁」。㉖「白濁」。㉗「白濁」。㉘「白濁」。㉙「白濁」。㉚「白濁」。㉛「白濁」。㉜「白濁」。㉝「白濁」。㉞「白濁」。㉟「白濁」。㊱「白濁」。㊲「白濁」。㊳「白濁」。㊴「白濁」。㊵「白濁」。㊶「白濁」。㊷「白濁」。㊸「白濁」。㊹「白濁」。㊺「白濁」。㊻「白濁」。㊼「白濁」。㊽「白濁」。㊾「白濁」。㊿「白濁」。

はくたーはくち

(はくた)「白帯下」 (名) 赤らち。
(はくた)「白道」 (名) ①「白道」。②「白道」。③「白道」。④「白道」。⑤「白道」。⑥「白道」。⑦「白道」。⑧「白道」。⑨「白道」。⑩「白道」。⑪「白道」。⑫「白道」。⑬「白道」。⑭「白道」。⑮「白道」。⑯「白道」。⑰「白道」。⑱「白道」。⑲「白道」。⑳「白道」。㉑「白道」。㉒「白道」。㉓「白道」。㉔「白道」。㉕「白道」。㉖「白道」。㉗「白道」。㉘「白道」。㉙「白道」。㉚「白道」。㉛「白道」。㉜「白道」。㉝「白道」。㉞「白道」。㉟「白道」。㊱「白道」。㊲「白道」。㊳「白道」。㊴「白道」。㊵「白道」。㊶「白道」。㊷「白道」。㊸「白道」。㊹「白道」。㊺「白道」。㊻「白道」。㊼「白道」。㊽「白道」。㊾「白道」。㊿「白道」。
(はくち)「白帯」 (名) ①「白帯」。②「白帯」。③「白帯」。④「白帯」。⑤「白帯」。⑥「白帯」。⑦「白帯」。⑧「白帯」。⑨「白帯」。⑩「白帯」。⑪「白帯」。⑫「白帯」。⑬「白帯」。⑭「白帯」。⑮「白帯」。⑯「白帯」。⑰「白帯」。⑱「白帯」。⑲「白帯」。⑳「白帯」。㉑「白帯」。㉒「白帯」。㉓「白帯」。㉔「白帯」。㉕「白帯」。㉖「白帯」。㉗「白帯」。㉘「白帯」。㉙「白帯」。㉚「白帯」。㉛「白帯」。㉜「白帯」。㉝「白帯」。㉞「白帯」。㉟「白帯」。㊱「白帯」。㊲「白帯」。㊳「白帯」。㊴「白帯」。㊵「白帯」。㊶「白帯」。㊷「白帯」。㊸「白帯」。㊹「白帯」。㊺「白帯」。㊻「白帯」。㊼「白帯」。㊽「白帯」。㊾「白帯」。㊿「白帯」。



はくちーはくぬ

(はくち)「白丁」 (名) ①「白丁」。②「白丁」。③「白丁」。④「白丁」。⑤「白丁」。⑥「白丁」。⑦「白丁」。⑧「白丁」。⑨「白丁」。⑩「白丁」。⑪「白丁」。⑫「白丁」。⑬「白丁」。⑭「白丁」。⑮「白丁」。⑯「白丁」。⑰「白丁」。⑱「白丁」。⑲「白丁」。⑳「白丁」。㉑「白丁」。㉒「白丁」。㉓「白丁」。㉔「白丁」。㉕「白丁」。㉖「白丁」。㉗「白丁」。㉘「白丁」。㉙「白丁」。㉚「白丁」。㉛「白丁」。㉜「白丁」。㉝「白丁」。㉞「白丁」。㉟「白丁」。㊱「白丁」。㊲「白丁」。㊳「白丁」。㊴「白丁」。㊵「白丁」。㊶「白丁」。㊷「白丁」。㊸「白丁」。㊹「白丁」。㊺「白丁」。㊻「白丁」。㊼「白丁」。㊽「白丁」。㊾「白丁」。㊿「白丁」。
(はくぬ)「白熱」 (名) ①「白熱」。②「白熱」。③「白熱」。④「白熱」。⑤「白熱」。⑥「白熱」。⑦「白熱」。⑧「白熱」。⑨「白熱」。⑩「白熱」。⑪「白熱」。⑫「白熱」。⑬「白熱」。⑭「白熱」。⑮「白熱」。⑯「白熱」。⑰「白熱」。⑱「白熱」。⑲「白熱」。⑳「白熱」。㉑「白熱」。㉒「白熱」。㉓「白熱」。㉔「白熱」。㉕「白熱」。㉖「白熱」。㉗「白熱」。㉘「白熱」。㉙「白熱」。㉚「白熱」。㉛「白熱」。㉜「白熱」。㉝「白熱」。㉞「白熱」。㉟「白熱」。㊱「白熱」。㊲「白熱」。㊳「白熱」。㊴「白熱」。㊵「白熱」。㊶「白熱」。㊷「白熱」。㊸「白熱」。㊹「白熱」。㊺「白熱」。㊻「白熱」。㊼「白熱」。㊽「白熱」。㊾「白熱」。㊿「白熱」。

はさんーはじ

【はさん】(破産) 破産(名) 家産を失ふ事。...

はさーはじか

【下箸】(配膳) 膳の肴などを食ふにいふ。...

はしかーはじこ

【撒魚】(名) (動) さんせうらうをこの一名。...

おぼろいあ こけくきか そせすしき とてつちた のねぬにま

語古++ 言方語個一 音字一

はへふひは もめむみま よえゆいや おれるりろ をさうらわ

【けい】(名) 上家を登(か)へてつゞけに酒を飲む。...

【はしたな】(名) 無からしむ。...

【はしほこ】(名) 書箱。...

語古++ 言方語個一 音字一

はしこーはした

はしたーはしの

はしはーはじめ

はじめはあゆ

はじめめる(他)「はじめ」の説。「さき」はじめをはり(始終)「始終」(名)物事の顛末もと

はあゆはしら

はあゆつ(馬術)「馬に乗る術、うまのりのわざ」

はしらはしり

はしら、だて「柱建」(名)家屋官殿の建築にて、ま

はしりはす

又其人「のあゆり」「走衆」(名)「はしり」

はすはすは

はす「破」(他、さ) 他説をうちやぶる。

はすみはせい

はすみ「機勢」(名)「はすむと、はねかへると、反

はちねーはちく

【はちねー】八音(名) ①「はちん」に同じ。 ②【佛】佛の出ず普賢の極好・柔軟・和適・尊嚴・聞く者をして尊重して懇解せしむるを。不女・聞く者を敬畏せしめ天賦外道を翻伏せしむるを。不眼・深遠不竭なるを。

はちくーはちお

【はちくー】はちお(名) ①竹を破る(破竹)に、刃を其端に加ふれば、他は容易に裂くるよりいふに、此の裂其勢に懸従するを。又、勢猛烈にして防ぐべからざるを。 ②「はちけん」(八月)(名) 年の第八の月、はづき。

はちしーはちす

【はちしー】はちす(名) ①切幡寺・幡井寺・嶋山寺。一の宮寺。常樂寺。圓分寺。觀音寺。井戸寺。恩山寺。立江寺。鶴林寺。太龍寺。平楽寺。樂王寺。以上阿波國。東寺。津寺。西寺。神祇寺。大日寺。圓分寺。一の宮寺。五台山。神師寺。高麗寺。種間寺。清徳寺。青龍寺。新田五社。藏經寺。山院(以上土佐國。觀自在寺。稻荷。佛木寺。明石寺。大寶寺。岩谷寺。淨瑠璃寺。八坂寺。西林寺。淨土寺。紫雲寺。右手寺。大山寺。延命寺。圓明寺。三島別宮。奉山寺。八幡札所。佐藤山。圓分寺。横峰寺。香園寺。一の宮古詳寺。前神寺。三角寺。以上伊豫國。聖邊寺。小松尾山。壽聖八幡。觀音寺。本山寺。彌谷寺。長瀬寺。出神寺。甲山寺。善通寺。金倉寺。道隆寺。道成寺。崇徳天皇寺。圓分寺。白幡寺。根香寺。一の宮。國島寺。八雲寺。志度寺。長尾寺。大塚寺。以上讃岐國。をいふ。

はちすーはち左

【はちすー】はち左(名) ①「はちん」に同じ。 ②【佛】佛の出ず普賢の極好・柔軟・和適・尊嚴・聞く者をして尊重して懇解せしむるを。不女・聞く者を敬畏せしめ天賦外道を翻伏せしむるを。不眼・深遠不竭なるを。

はちたーはち左

【はちたー】はち左(名) ①「はちん」に同じ。 ②【佛】佛の出ず普賢の極好・柔軟・和適・尊嚴・聞く者をして尊重して懇解せしむるを。不女・聞く者を敬畏せしめ天賦外道を翻伏せしむるを。不眼・深遠不竭なるを。

はちねーはちす

【はちねー】はちす(名) ①切幡寺・幡井寺・嶋山寺。一の宮寺。常樂寺。圓分寺。觀音寺。井戸寺。恩山寺。立江寺。鶴林寺。太龍寺。平楽寺。樂王寺。以上阿波國。東寺。津寺。西寺。神祇寺。大日寺。圓分寺。一の宮寺。五台山。神師寺。高麗寺。種間寺。清徳寺。青龍寺。新田五社。藏經寺。山院(以上土佐國。觀自在寺。稻荷。佛木寺。明石寺。大寶寺。岩谷寺。淨瑠璃寺。八坂寺。西林寺。淨土寺。紫雲寺。右手寺。大山寺。延命寺。圓明寺。三島別宮。奉山寺。八幡札所。佐藤山。圓分寺。横峰寺。香園寺。一の宮古詳寺。前神寺。三角寺。以上伊豫國。聖邊寺。小松尾山。壽聖八幡。觀音寺。本山寺。彌谷寺。長瀬寺。出神寺。甲山寺。善通寺。金倉寺。道隆寺。道成寺。崇徳天皇寺。圓分寺。白幡寺。根香寺。一の宮。國島寺。八雲寺。志度寺。長尾寺。大塚寺。以上讃岐國。をいふ。

はちふーはちめ

を教済するといひ、又、露路に義井を設くること。水路に橋梁を架すと、險隘を平かにすると、父母に孝養すると、三寶を恭敬すると、病人に給事すると、貧窮を救済すると、无道會を設くるといひ。

はちめーはちら

「たい」八面體(名) 八個の平面にて圍まれたる立體。——「れいろち」八面玲瓏(名) 何れの方面もいと鮮明なること。心中に何等の

はちりーはつあ

「はちりーはん」八里半(名) 味の裏に及ばぬを九里にや、足らぬ義に寄せたるものやきいも。

はつあききり「初秋霧」(名) 初秋の頃の霧。

はつあん「發案」(名) 考へ出すこと。

はつあ「發意」(名) 考へ出さずとも、おもひ出すこと。

はつあ「發音」(名) 音を發する。

はつあ「發育」(名) 成長。

はつあ「發音」(名) 音を發する。

はつあ「發音」(名) 音を發する。

はつあ「發音」(名) 音を發する。

はつあ「發音」(名) 音を發する。

はつあ「發音」(名) 音を發する。

はつあ「發音」(名) 音を發する。

はつあ「發音」(名) 音を發する。

はつあ「發音」(名) 音を發する。

はつあ「發音」(名) 音を發する。

はつあ「發音」(名) 音を發する。

はつあ「發音」(名) 音を發する。

はつあ「發音」(名) 音を發する。

はつあ「發音」(名) 音を發する。

はつあ「發音」(名) 音を發する。

はつあ「發音」(名) 音を發する。

はつあ「發音」(名) 音を發する。

はつあ「發音」(名) 音を發する。

はつあ「發音」(名) 音を發する。

はつあ「發音」(名) 音を發する。

はつあーはつあ

「はつあ」八面體(名) 八個の平面にて圍まれたる立體。——「れいろち」八面玲瓏(名) 何れの方面もいと鮮明なること。心中に何等の

はつあーはつあ

「はつあ」八面體(名) 八個の平面にて圍まれたる立體。——「れいろち」八面玲瓏(名) 何れの方面もいと鮮明なること。心中に何等の

はつせーはつた

けがす「汚末席」其席につらなるを譲選し... (はつせつ「八節」(名) 立春春分立夏夏至立秋秋分立冬冬至の稱。)

はつたーはつて

いしなだんど。 (はつたり「抜刀」(名) 刀をぬきはなすと、ぬきみをさげもつと。)

はつでーはつせ

(はつてん「發電」(名) 電気を発生すると。 (はつてん「發電」(名) 電気を発生すると。)

はつせーはつた

「發動機」(名) 他の器械の運轉を起す器械、即ち水車の如きこれなり。 (はつせつ「八節」(名) 立春春分立夏夏至立秋秋分立冬冬至の稱。)

はつたーはつて

(はつはい「發賣」(名) 賣り出すと、うりだし。 (はつはい「發賣」(名) 賣り出すと、うりだし。)

はつびーはつほ

はつびな「初雛」(名) 女兒の生れて初めての三月節句に雛人形をかざりて祝ふと。 (はつびな「初雛」(名) 女兒の生れて初めての三月節句に雛人形をかざりて祝ふと。)

はつばーはつゆ

はつばら[別稱]名 懲戒處分に於て伴給の全部若しくは幾分を納付せしむる。

はつよーはて はつよ[初夜]名 はじめてのよる。 是の勢よくとびはねると。

はてーはでや (はて[感]) 怪し又は迷ふ時などに發する語。

はてる(自) はつ

はてる(自) はつ 即ち父の義 昔時、傳道のため我國に渡來したる切支丹宗の宣教師の號、轉じて、切支丹宗の異稱。

はど[波戸]名 水中に突出したる土石の凝結物、波浪を防止する障蔽又は船荷を上下する経路となるもの。埠頭、馬頭、防波堤。

はど[馬奴]名 うまかひ。

はど[波動]名 なみのうごき。 (理)物質の一部を振動せしむるとき、其振動が漸次物質内の各部に傳はると。

はてるーはどち

はど[波戸]名 水中に突出したる土石の凝結物、波浪を防止する障蔽又は船荷を上下する経路となるもの。埠頭、馬頭、防波堤。

はて[感] 怪し又は迷ふ時などに發する語。

はなすーはなた

はなすーはなた
はなすーはなた
はなすーはなた
はなすーはなた
はなすーはなた

はなたーはなち

はなたーはなち
はなたーはなち
はなたーはなち
はなたーはなち
はなたーはなち

はなちーはなつ

はなちーはなつ
はなちーはなつ
はなちーはなつ
はなちーはなつ
はなちーはなつ

はなづーはなの

はなづーはなの
はなづーはなの
はなづーはなの
はなづーはなの
はなづーはなの

はなのーはなの

はなのーはなの
はなのーはなの
はなのーはなの
はなのーはなの
はなのーはなの

はなのーはなび

はなのーはなび
はなのーはなび
はなのーはなび
はなのーはなび
はなのーはなび

はなれぬ

はなれぬ(形) 離(形)はなれぬ、
とつちし。
はなれぬ(形) 離(形)はなれぬ、
とつちし。
はなれぬ(形) 離(形)はなれぬ、
とつちし。
はなれぬ(形) 離(形)はなれぬ、
とつちし。
はなれぬ(形) 離(形)はなれぬ、
とつちし。

はなれぬ

はなれぬ(形) 離(形)はなれぬ、
とつちし。
はなれぬ(形) 離(形)はなれぬ、
とつちし。
はなれぬ(形) 離(形)はなれぬ、
とつちし。
はなれぬ(形) 離(形)はなれぬ、
とつちし。
はなれぬ(形) 離(形)はなれぬ、
とつちし。



はなれぬ

はなれぬ(形) 離(形)はなれぬ、
とつちし。
はなれぬ(形) 離(形)はなれぬ、
とつちし。
はなれぬ(形) 離(形)はなれぬ、
とつちし。
はなれぬ(形) 離(形)はなれぬ、
とつちし。
はなれぬ(形) 離(形)はなれぬ、
とつちし。

はなぬ

はなぬ(形) 離(形)はなぬ、
とつちし。
はなぬ(形) 離(形)はなぬ、
とつちし。
はなぬ(形) 離(形)はなぬ、
とつちし。
はなぬ(形) 離(形)はなぬ、
とつちし。
はなぬ(形) 離(形)はなぬ、
とつちし。

はなぬ

はなぬ(形) 離(形)はなぬ、
とつちし。
はなぬ(形) 離(形)はなぬ、
とつちし。
はなぬ(形) 離(形)はなぬ、
とつちし。
はなぬ(形) 離(形)はなぬ、
とつちし。
はなぬ(形) 離(形)はなぬ、
とつちし。

はなぬ

はなぬ(形) 離(形)はなぬ、
とつちし。
はなぬ(形) 離(形)はなぬ、
とつちし。
はなぬ(形) 離(形)はなぬ、
とつちし。
はなぬ(形) 離(形)はなぬ、
とつちし。
はなぬ(形) 離(形)はなぬ、
とつちし。

はねがーはねづ

はねがーはねづ [羽掛] (名) 鳥の嘴(くちばし)にて自ら羽を
はねがーはねづ [撥] (他、三四) はねるやうにす
はねがーはねづ [花籃] (名) はなかつらに同じ
はねがーはねづ [跳反] (名) はねかへると
はねがーはねづ [跳反者] (名) 物事のかるはずみなる人
はねがーはねづ [跳反] (自、三四) 跳
はねがーはねづ [跳木] (名) 葉(さ)けわたすもの、兩端の
はねがーはねづ [羽葉] (名) つばさの主要なる骨
はねがーはねづ [羽衣] (名) はねごもに同じ
はねがーはねづ [羽細工] (名) 鳥の羽毛を用いて細
はねがーはねづ [跳將基] (名) ことびまやう
はねがーはねづ [唐棣] (名) 紅色を帯びたる白色
はねがーはねづ [跳炭] (名) 火に燃(こ)せて飛ぶ炭、は
はねがーはねづ [撥] (名) うはまへをはねたる炭
はねがーはねづ [羽子突] (名) 羽子を突きて遊ぶと
はねがーはねづ [撥附] (他、か下二) はね付
はねがーはねづ [羽繕] (名) はねづくろひに

はねつーはねや

はねつーはねや [撥釣瓶] (名) 柱の上に横木をわ
はねつーはねや [羽習] (名) 鳥のつばさをひろげて
はねつーはねや [羽習] (名) 前後に同じ
はねつーはねや [羽比鳥] (名) ひよくの
はねつーはねや [撥荷] (名) 荷物の中よりえり出しの
はねつーはねや [跳退] (自、か四) 身ををどらせ
はねつーはねや [撥除] (他、か下二) 撥更
はねつーはねや [跳退] (自、か四) 身ををどらせ
はねつーはねや [跳退] (自、か四) 身ををどらせ
はねつーはねや [跳退] (自、か四) 身ををどらせ
はねつーはねや [跳退] (自、か四) 身ををどらせ
はねつーはねや [跳退] (自、か四) 身ををどらせ
はねつーはねや [跳退] (自、か四) 身ををどらせ
はねつーはねや [跳退] (自、か四) 身ををどらせ

はねやーはばり

はねやーはばり [羽休] (名) 鳥の老ばちく飛ぶとを
はねやーはばり [羽休] (名) 前後に同じ
はねやーはばり [羽休] (名) 前後に同じ
はねやーはばり [羽休] (名) 前後に同じ
はねやーはばり [羽休] (名) 前後に同じ
はねやーはばり [羽休] (名) 前後に同じ
はねやーはばり [羽休] (名) 前後に同じ
はねやーはばり [羽休] (名) 前後に同じ
はねやーはばり [羽休] (名) 前後に同じ
はねやーはばり [羽休] (名) 前後に同じ

ははりーははこ

ははりーははこ [母上] (名) 母の敬稱
ははりーははこ [波波加] (名) 祖(かば)さくちと同じ
ははりーははこ [母方] (名) 母の血筋(外戚)
ははりーははこ [母方] (名) 母の血筋(外戚)
ははりーははこ [母方] (名) 母の血筋(外戚)
ははりーははこ [母方] (名) 母の血筋(外戚)
ははりーははこ [母方] (名) 母の血筋(外戚)
ははりーははこ [母方] (名) 母の血筋(外戚)
ははりーははこ [母方] (名) 母の血筋(外戚)
ははりーははこ [母方] (名) 母の血筋(外戚)

ははこーははり

ははこーははり [母子草] (名) 菊科に属する草、原野に自
ははこーははり [母子草] (名) 菊科に属する草、原野に自
ははこーははり [母子草] (名) 菊科に属する草、原野に自
ははこーははり [母子草] (名) 菊科に属する草、原野に自
ははこーははり [母子草] (名) 菊科に属する草、原野に自
ははこーははり [母子草] (名) 菊科に属する草、原野に自
ははこーははり [母子草] (名) 菊科に属する草、原野に自
ははこーははり [母子草] (名) 菊科に属する草、原野に自
ははこーははり [母子草] (名) 菊科に属する草、原野に自
ははこーははり [母子草] (名) 菊科に属する草、原野に自

ははるーははれ

ははるーははれ [延枝] (名) はひのびたる枝
ははるーははれ [延枝] (名) はひのびたる枝
ははるーははれ [延枝] (名) はひのびたる枝
ははるーははれ [延枝] (名) はひのびたる枝
ははるーははれ [延枝] (名) はひのびたる枝
ははるーははれ [延枝] (名) はひのびたる枝
ははるーははれ [延枝] (名) はひのびたる枝
ははるーははれ [延枝] (名) はひのびたる枝
ははるーははれ [延枝] (名) はひのびたる枝
ははるーははれ [延枝] (名) はひのびたる枝

はむーばめん

はむ(體)一名(動)はむに同じ。「肉火盛」ハム(體)一名(動)ふすべて置清にしたる豚の股の行を受く。
はむ(體)一名(動)はむに同じ。「肉火盛」ハム(體)一名(動)ふすべて置清にしたる豚の股の行を受く。
はむ(體)一名(動)はむに同じ。「肉火盛」ハム(體)一名(動)ふすべて置清にしたる豚の股の行を受く。

はもーはやい

はも(體)一名(動)はもに同じ。「肉火盛」ハム(體)一名(動)ふすべて置清にしたる豚の股の行を受く。
はも(體)一名(動)はもに同じ。「肉火盛」ハム(體)一名(動)ふすべて置清にしたる豚の股の行を受く。
はも(體)一名(動)はもに同じ。「肉火盛」ハム(體)一名(動)ふすべて置清にしたる豚の股の行を受く。

はやりーはやく

はやり(體)一名(動)はやりに同じ。「肉火盛」ハム(體)一名(動)ふすべて置清にしたる豚の股の行を受く。
はやり(體)一名(動)はやりに同じ。「肉火盛」ハム(體)一名(動)ふすべて置清にしたる豚の股の行を受く。
はやり(體)一名(動)はやりに同じ。「肉火盛」ハム(體)一名(動)ふすべて置清にしたる豚の股の行を受く。

はやーはや

はや(體)一名(動)はやりに同じ。「肉火盛」ハム(體)一名(動)ふすべて置清にしたる豚の股の行を受く。
はや(體)一名(動)はやりに同じ。「肉火盛」ハム(體)一名(動)ふすべて置清にしたる豚の股の行を受く。
はや(體)一名(動)はやりに同じ。「肉火盛」ハム(體)一名(動)ふすべて置清にしたる豚の股の行を受く。

はやずーはや

はやず(體)一名(動)はやずに同じ。「肉火盛」ハム(體)一名(動)ふすべて置清にしたる豚の股の行を受く。
はやず(體)一名(動)はやずに同じ。「肉火盛」ハム(體)一名(動)ふすべて置清にしたる豚の股の行を受く。
はやず(體)一名(動)はやずに同じ。「肉火盛」ハム(體)一名(動)ふすべて置清にしたる豚の股の行を受く。

はやびーはやり

はやび(體)一名(動)はやびに同じ。「肉火盛」ハム(體)一名(動)ふすべて置清にしたる豚の股の行を受く。
はやび(體)一名(動)はやびに同じ。「肉火盛」ハム(體)一名(動)ふすべて置清にしたる豚の股の行を受く。
はやび(體)一名(動)はやびに同じ。「肉火盛」ハム(體)一名(動)ふすべて置清にしたる豚の股の行を受く。

はらはーはらひ

はらはーはらひ(名) ●木の葉などの散るさまにいふ語。 ●涙などの落つるさまにいふ語。 ●氣づかひ危ぶむさまにいふ語。

はらひーばらひ

はらひーばらひ(名) ●はらひ出す。 ●はらひだす。 ●はらひ出す。 ●はらひ出す。 ●はらひ出す。

はらふーばらむ

はらふーばらむ(名) ●はらひに同じ。 ●はらひに同じ。 ●はらひに同じ。

はらむーはらわ

はらむーはらわ(名) ●はらむに同じ。 ●はらむに同じ。

はらひーはらふ

はらひーはらふ(名) ●はらひに同じ。 ●はらひに同じ。

はらふーはらむ

はらふーはらむ(名) ●はらふに同じ。 ●はらふに同じ。

はりかーはりき

にして酸化し易く、よく水を分解する性あり。
はりかた「張型」(名) 陰室の形につくりたるもの。
はりかぬ「針金」(名) 金属を細長く練の如くに延ばしたるもの。...

はりきーはりま

はりきれる「白」(はりきる)の語。
はりきらす「針師」(名) はりい、はりいあや、はりくやうの「針供養」(名) 贈人が二月八日に、手紙の裁端にて折れたる針を悉く漢島社に納めて、其日の裁端を休むと、はりくのやう。...

はりすーはりつ

地をなす。
はりすひいし「針吸石」(名) 磁石の一名。
はりすり「標指」(名) 古昔、標の樹皮をもて布を染めし。
はりすり「針磨」(名) 針の製造、又、其業の人。...

はりつーはりの

ふる紙。ーはしら「張附柱」(名) はりつけの形に用ふる柱、即ち十字架、張柱。
はりつづける「張附」(他、か下)
はりつづつ「鍼筒」(名) 鍼治に用ふる針をいれおく筒。...

はりばーはりめ

はりばこ「針箱」(名) 裁縫一切の具を入れる箱。
はりばり「名」一種の料理、かぼし大根を細く刻きて酢醤油に漬けたるもの。
はりばり「名」ひきき又ひきき裂々、音などいふ語。...

はりめーはる

衣。ーころも「針目衣」(名) 前條に同じ。
はりめだか「針目高」(名) 「動」めだかの一種、小形黒色にして目突出す。
はりめぐら「針籠」(名) 「動」一穴類に属する獸形はもぐらに似て、體に棘毛を密生す、多く森林に棲息し、時に地中を潛行して小蟲を捕食す、繁殖期に及べば腹を産む、其中にて卵を孵化せしむ、「オーストリア」の産産なり。...

はんーばん

事若しくは概念が、正より發展して、一の矛盾の狀態となる。
(はん)〔繁〕(名) ぎげきと、おはきと、一より簡に入

はんあーばんら

(はん)あ(い)汎愛(名) 誰彼の差別なくひろく愛する。
(はん)あ(う)汎愛(名) 誰彼の差別なくひろく愛する。

はんらーはんか

(はん)ら(う)汎(名) 心のわづらひふまじと。
(はん)え(い)繁榮(名) さかゆると、はんまやう。

はんかーはんか

(はん)か(う)〔版行〕(名) 書籍を印刷して世に出すと、刊行。
(はん)か(う)〔伴行〕(名) ともなひゆくこと、つれゆくこと。

はんかーはんき

(はん)か(つ)〔半可通〕(名) なまものぶり、一知半解。
(はん)か(つ)〔半合羽〕(名) 丈短き合羽、享保の初頃より行はる。

はんきーはんき

(はん)き(う)〔刊行〕(名) 印刷して世に出すと、刊行。
(はん)き(う)〔伴行〕(名) ともなひゆくこと、つれゆくこと。

ばんでーはんぞ

ばんでをけ「番手桶」(名) 拭掃除(ウサ)などに用ふる雑用の手桶。「ダラ」

はんぞーはんね

て生ずる動作の解。「の異稱」

はんねーはんね

よりは長き雨靴。

はんのーはんば

(ばん)のり「萬能」(名) 上るの物事に功能あると。上るの物事をなし得ると。

はんばーはんび

(はん)ばく「反駁」(名) 反対して非難する。



〔びんは〕

はんびーはんべ

(はん)びらけ「半開」(名) 半ば文明なると。

はんべーはんみ

り出づ一種の食品、魚肉を叩ききりて蒸したるもの。あんべい、はんべん。
(はんべい)「藩屏」(名) まがき、へだて、へい。
(はんべい)「番兵」(名) 張番する兵士、番の兵士、番卒、番卒。

はんみーはんも

(はんみん)「萬民」(名) おほくのたみ、衆民。
(はんみん)「蕃民」(名) えびすのたみ、化外の民。
(はんむ)「繁務」(名) いそがはしきつとめ。
(はんむ)「煩務」(名) わづらはしきつとめ。
(はんめい)「反命」(名) 使ひして其結果を申述べると、命を受けたる事をへて其始末を報告する(と、復命)。

はんもーはんら

はんもど「版元」(名) 書畫を發兌する所、出版主。
はんももひき「半股引」(名) 丈短くして僅に腰の上まである股引。
(はんもん)「反問」(名) とひかへすと。
(はんもん)「煩悶」(名) あもひみだるゝと、あもひわづらふと、わづらひもだゆると。

はんりーはんろ

つくしきと。
(はんり)「藩籬」(名) まがき、かき、かこひ。
(はんり)「半里」(名) 一里の半分、はんりち。
(はんり)「飯粒」(名) めしつぶ。
(はんり)「飯粒」(名) 支那の秦時代の銅。
(はんり)「飯粒」(名) 袖又は水干などの領(江)の間に仕立てあるもの、まるま、方領。

はんろーひ

由を東隣せられてつなげられる所。
(はんろ)「汎論」(名) ひろく通ずる論、又、概括したる論。
(はんろ)「煩論」(名) わづらはしく論ずると。
(はんろ)「範圍」(名) かこひの内に入れこむと。
(はんろ)「盤詰」(名) かこひ、曲して圍状をなす模様。
(はんろ)「盤詰」(名) 盤曲して圍状をなす模様。
(はんろ)「盤詰」(名) 盤曲して圍状をなす模様。

ひびひ

一種の騒音H即ち聲帯を少しく張り聲門を稍や狭めて濃厚なる氣息を吐出する時に生ずる音と、母音いととの騒音。
(ひび)「響音」すべて「び」と同じくして、たゞ聲帯の振動の伴ふを異なりとす、從來「ひ」の濁音となし、は誤りなり。
(ひび)「響音」すべて「び」と同じくして、たゞ聲帯の振動の伴ふを異なりとす、從來「ひ」の濁音となし、は誤りなり。

ひーひ

御事に冠する語、日神即ち天照皇大神の御齋なるよりいふ、「ひ」の御門、「天津一御」。
(ひ)「火」(名) 物體の燃焼。物體の灼熱して深紅色となれるもの。
(ひ)「火」(名) 物體の燃焼。物體の灼熱して深紅色となれるもの。

ひいひ

ひいひ (名) 嘯(ハ)の上を嘯りて出て、物の見えざ... び (名) 嘯(ハ)の上を嘯りて出て、物の見えざ... び (名) 嘯(ハ)の上を嘯りて出て、物の見えざ...

ひいひあた

ひいひあた (名) 味の好むと。義の正しきと。... ひいひあた (名) 味の好むと。義の正しきと。...

ひあの一ひいど

ひあの一ひいど (名) 西洋より傳來したる一種の樂... ひあの一ひいど (名) 西洋より傳來したる一種の樂...

ひいねーひりち

ひいねーひりち (名) かがみ「玻璃鏡」(名) 玻璃... かがみ「玻璃鏡」(名) 玻璃... かがみ「玻璃鏡」(名) 玻璃...

ひりつーひえん

ひりつーひえん (名) 火打道具をいれおく箱... 火打道具をいれおく箱... 火打道具をいれおく箱...



[あぐぶちうひ]

ひえんーひかり

ひえんーひかり (名) 延び下は縮まりて、四隅の曲がり立ちたるもの... 延び下は縮まりて、四隅の曲がり立ちたるもの...

ひきりひきり

ひきりひきり(引受) (名) 久しきにわたると。ながびく
と「引取」
ひきりひきり(引取) (名) 久しきにわたると。ながびく
と「引取」
ひきりひきり(引渡) (名) 久しきにわたると。ながびく
と「引取」
ひきりひきり(引越) (名) 久しきにわたると。ながびく
と「引取」

ひきりひきり

ひきりひきり(引風) (名) ひかがみに同じ。
ひきりひきり(引柄) (名) 柿餅をひきたるもの。
ひきりひきり(引風) (名) かせひき、風邪、「の妙薬」。
ひきりひきり(引金) (名) 鑛山の火口に設置せる金
具、これをあげ引かきかとして發火せしむるもの。
ひきりひきり(引替) (名) 引替(自、下二) 物と物とを交換す。かへあふ。反對す。うちはら
にてあり。
ひきりひきり(引替) (名) ひきかふると。
ひきりひきり(引替) (副) うちはらに、反對に。
ひきりひきり(引返) (名) ひきかへすと。
ひきりひきり(引返) (名) 芝居にて、前の幕に替りて直ちにくり返へして幕
早幕。③船人の盛服表とすまはしとの同じ切地
のもの。
ひきりひきり(引返) (引返) (他、下二) 引
りかへす。反對す。④あとへもどす。もとへかへす。
「路を」⑤とりもどす。とりかへす。
ひきりひきり(引返) (自) ひきかふると。
ひきりひきり(引返) (名) 動詞。兩種類中無尾類
に属する動物、四肢を有し、後趾の趾間に蹼を具す。
皮膚に多数の突起あり、體龐龐大にして動作遅鈍
なり、陸地の地に棲息し夜間出て、食を求む。
ひきりひきり(引無) (形、下二) 絶え間
なし。たてつけなりのべつなり。
ひきりひきり(引切) (副) 性急に、氣早に。
ひきりひきり(引切) (他、下二) 引き強りて斷
ち切る。ひきりひきり(引切) (他、下二) 引き強りて斷
ち切る。ひきりひきり(引切) (他、下二) 引き強りて斷
ち切る。

ひきりひきり

ひきりひきり(引薬) (名) 皮膚に塗る藥、ぬり
ぐすり。
ひきりひきり(引組) (自、下二) 引き寄せて
固みつ。ひきりひきり(引組) (他、下二) 一つ
にまとむ。すべあはす。
ひきりひきり(引組) (他、下二) 一つ
にまとむ。すべあはす。
ひきりひきり(引組) (名) 置が十分に發育して身體の透
明となりたるもの。
ひきりひきり(引組) (名) 車箱にか、へおく車ひき。
ひきりひきり(引組) (名) ひきこすと、やうつり、や
どが、修繕、修繕。
ひきりひきり(引組) (名) 袋の後にひく帯の如きも
ひきりひきり(引組) (引越) (自、下二) 家を移す。居
を轉す。轉宅す。
ひきりひきり(引組) (名) 事の説明に他の事を例と
して舉ぐる。例證、引例。
ひきりひきり(引組) (名) ひきこくと、引籠。――
おあん(引込思案) (名) 勇氣なきかんがへ。老
りごみの思案。――おゆき(引込主義) (名)
家にこもり出てさると。萬事に手を控ふる
のみにして、自ら進んでなさんとせざると。
ひきりひきり(引組) (名) 過度にひきこむと。
ひきりひきり(引組) (引込) (自、下二) 内にこもり
居て出でず。閉居。③おろごみす。ぐずぐずす。
おろごみ入る。④おろごりて低くなる。
ひきりひきり(引組) (引込) (他、下二) 引きて入れ
こむ。⑤いざなひて仲間に入。加はらしむ。⑥深
く感胃にあかざる。風を――
ひきりひきり(引組) (引込) (他、下二) 引
りこむ。⑦いざなひて仲間に入。加はらしむ。⑧深
く感胃にあかざる。風を――

ひきりひきり

ひきりひきり(引算) (名) 二數より他數を減ず
る算法。減法。
ひきりひきり(引算) (名) 二數より他數を減ず
る算法。減法。
ひきりひきり(引算) (名) 二數より他數を減ず
る算法。減法。
ひきりひきり(引算) (名) 二數より他數を減ず
る算法。減法。

ひきりひきり

ひきりひきり(引算) (名) 二數より他數を減ず
る算法。減法。
ひきりひきり(引算) (名) 二數より他數を減ず
る算法。減法。
ひきりひきり(引算) (名) 二數より他數を減ず
る算法。減法。
ひきりひきり(引算) (名) 二數より他數を減ず
る算法。減法。

ひきりひきり

ひきりひきり(引算) (名) 二數より他數を減ず
る算法。減法。
ひきりひきり(引算) (名) 二數より他數を減ず
る算法。減法。
ひきりひきり(引算) (名) 二數より他數を減ず
る算法。減法。
ひきりひきり(引算) (名) 二數より他數を減ず
る算法。減法。

ひきよめき「引蓮」(名) 蓮のいにはこのよめき... ひきよめき「引蓮」(名) 蓮のいにはこのよめき... ひきよめき「引蓮」(名) 蓮のいにはこのよめき...

ひきよめき「引蓮」(名) 蓮のいにはこのよめき... ひきよめき「引蓮」(名) 蓮のいにはこのよめき... ひきよめき「引蓮」(名) 蓮のいにはこのよめき...

ひきよめき「引蓮」(名) 蓮のいにはこのよめき... ひきよめき「引蓮」(名) 蓮のいにはこのよめき... ひきよめき「引蓮」(名) 蓮のいにはこのよめき...

ひきよめき「引蓮」(名) 蓮のいにはこのよめき... ひきよめき「引蓮」(名) 蓮のいにはこのよめき... ひきよめき「引蓮」(名) 蓮のいにはこのよめき...

ひきよめき「引蓮」(名) 蓮のいにはこのよめき... ひきよめき「引蓮」(名) 蓮のいにはこのよめき... ひきよめき「引蓮」(名) 蓮のいにはこのよめき...

ひきよめき「引蓮」(名) 蓮のいにはこのよめき... ひきよめき「引蓮」(名) 蓮のいにはこのよめき... ひきよめき「引蓮」(名) 蓮のいにはこのよめき...

ひきよめき

ひきよめき

ひきよめき

ひきよめき

ひきよめき

ひきよめき

遊女をか、(置きたる女郎屋。
ひくわ(名、副) 氣息のたえし、なるさまにいふ語。「悔過」。



[りどひくひ]

ひくわ(名、副) 乾菓子(名) 乾きたる菓子。
ひくわ(名、副) 乾菓子(名) 乾きたる菓子。
ひくわ(名、副) 乾菓子(名) 乾きたる菓子。

ひくわ(名、副) 乾菓子(名) 乾きたる菓子。
ひくわ(名、副) 乾菓子(名) 乾きたる菓子。
ひくわ(名、副) 乾菓子(名) 乾きたる菓子。

ひくわ(名、副) 氣息のたえし、なるさまにいふ語。「悔過」。
ひくわ(名、副) 乾菓子(名) 乾きたる菓子。
ひくわ(名、副) 乾菓子(名) 乾きたる菓子。

ひくわ(名、副) 乾菓子(名) 乾きたる菓子。
ひくわ(名、副) 乾菓子(名) 乾きたる菓子。
ひくわ(名、副) 乾菓子(名) 乾きたる菓子。

ひくわ(名、副) 乾菓子(名) 乾きたる菓子。
ひくわ(名、副) 乾菓子(名) 乾きたる菓子。
ひくわ(名、副) 乾菓子(名) 乾きたる菓子。

ひしむーひあや

黒子を帯びたる群芳なるもの。――「す」[醬酢] (名)。「ひあは」に同じ。
ひしむーひあや (名) 乾(他、ま下二) かわかす。
ひしめく (名) ひしめく。
ひしめく (名) 自、か四。ひしめく。
ひしめく (名) 自、か四。ひしめく。
ひしめく (名) 自、か四。ひしめく。
ひしめく (名) 自、か四。ひしめく。
ひしめく (名) 自、か四。ひしめく。
ひしめく (名) 自、か四。ひしめく。
ひしめく (名) 自、か四。ひしめく。
ひしめく (名) 自、か四。ひしめく。
ひしめく (名) 自、か四。ひしめく。

ひあやーひあゆ

き上告を受けるの權ある裁判所の檢察は、司法大臣の命により若しくは職權を以て、何時にても其裁判所に上告。――せりあふりし(非常召集) (名) 戦時又は事變に際して行ふ軍人の召集。
ひあやーひあゆ (名) 犯人逮捕のため警察官が或範圍を警戒する。
ひあやーひあゆ (名) 非常費 (名) 非常のときの費用。
ひあやーひあゆ (名) 第二種備金の稱。
ひあやーひあゆ (名) 微品 (名) 柏子木の如き形状をなす微細なる結晶。
ひあやーひあゆ (名) 非商人 (名) 商人にあらざる人、商人の對。
ひあやーひあゆ (名) 柄杓 (名) 湯水などを汲み取る器、竹筒又は柄若しくは曲物(マゴ)に長き柄をつけたるもの。
ひあやーひあゆ (名) 遊女の異稱。
ひあやーひあゆ (名) 飛錫 (名) 僧侶又は道士の旅行、行。
ひあやーひあゆ (名) 毘沙門 (名) 梵語 Vajrapāna。
ひあやーひあゆ (名) 毘沙門 (名) 東方を守護し財寶を掌る神。
ひあやーひあゆ (名) 毘沙門天 (名) 前條に同じ。
ひあやーひあゆ (名) 七首 (名) 櫻剣の類、あひくち。
ひあやーひあゆ (名) 毘首羯磨 (名) 古代「インド」の彫刻家、善く佛像を刻みたりとて、後世、これを祭る。
ひあやーひあゆ (名) 秘術 (名) 人に知らさぬ術。
ひあやーひあゆ (名) 美術 (名) 美を表現することを目的とする技術又は製作、即ち、詩歌、音楽、繪畫、彫刻、建築などの類をいふ、普通には特に繪畫、彫刻等を指す。

ひあゆーひあま

「か」美術家 (名) 美術を業とする人。
ひあゆーひあま (名) 美術に巧みなる人。
ひあゆーひあま (名) 美術家の社會。
ひあゆーひあま (名) 美術の趣味を解し得る心。
ひあゆーひあま (名) 美術の製作物。
ひあゆーひあま (名) 批准 (名) 可否を判決してゆるす。
ひあゆーひあま (名) 批准 (名) 可否を判決してゆるす。
ひあゆーひあま (名) 批准 (名) 可否を判決してゆるす。
ひあゆーひあま (名) 批准 (名) 可否を判決してゆるす。
ひあゆーひあま (名) 批准 (名) 可否を判決してゆるす。
ひあゆーひあま (名) 批准 (名) 可否を判決してゆるす。
ひあゆーひあま (名) 批准 (名) 可否を判決してゆるす。
ひあゆーひあま (名) 批准 (名) 可否を判決してゆるす。
ひあゆーひあま (名) 批准 (名) 可否を判決してゆるす。

ひあまーひあん

き食物をくらふこと。
ひあまーひあん (名) うつくしき。
ひあまーひあん (名) うつくしき。
ひあまーひあん (名) うつくしき。
ひあまーひあん (名) うつくしき。
ひあまーひあん (名) うつくしき。
ひあまーひあん (名) うつくしき。
ひあまーひあん (名) うつくしき。
ひあまーひあん (名) うつくしき。
ひあまーひあん (名) うつくしき。
ひあまーひあん (名) うつくしき。

ひあまーひあま

物形は芭蕉に似て小さし、花は葉荷(アザミ)に似て朱色なり、多く琉球に産す、此葉を黒糖にし又は原にて油に煉り、髪を洗ふに用れば、光(げ)たるも髪生ずといふ。ひあまーひあま (名) 紅糖。
ひあまーひあま (名) 比 (他) さ。
ひあまーひあま (名) 比 (他) さ。
ひあまーひあま (名) 比 (他) さ。
ひあまーひあま (名) 比 (他) さ。
ひあまーひあま (名) 比 (他) さ。
ひあまーひあま (名) 比 (他) さ。
ひあまーひあま (名) 比 (他) さ。
ひあまーひあま (名) 比 (他) さ。
ひあまーひあま (名) 比 (他) さ。
ひあまーひあま (名) 比 (他) さ。

ひあまーひあま

「ひ」の掃除を司りし下司の女。――わらはひ。
ひあまーひあま (名) ひあまのわらは。
ひあまーひあま (名) ひあまのわらは。
ひあまーひあま (名) ひあまのわらは。
ひあまーひあま (名) ひあまのわらは。
ひあまーひあま (名) ひあまのわらは。
ひあまーひあま (名) ひあまのわらは。
ひあまーひあま (名) ひあまのわらは。
ひあまーひあま (名) ひあまのわらは。
ひあまーひあま (名) ひあまのわらは。
ひあまーひあま (名) ひあまのわらは。

ひたさし 日給札(名) 古昔殿上人の名を志したる名だ。
ひたみち 直路(名) ひたとす。一途。
ひため 大雨(名) おほあめ。轉じて、ひさま。

ひたさし—ひたし

ひたる—ひちか

ひちが—ひちゆ

二、銀は一〇・五、銅は八・八、鐵は七・八、アルミニウムは二・七、水銀は一三・六、硫黄は一・八、硝酸は一・六、アルゴールは〇・八なり。
けい 比重計(名) 液體の比重を測るに用ふる器。上部は細くして目盛りありて中腹の膨大せる硝子管の下端に水銀を入れ、これを液中に直立して浮かし、

ひちゆ—ひちち

ひちん—ひちか

ひつか—ひつぎ

みき に(左右)副 かけこれと、いへる。
むき 左向(名) 左方(向)と。
もぶ 左文字(名) 普通の文字を裏返にして見たる形の文字。
ゆがみ 左曲(名) 左方のゆがみ。

ひたれ 靨(名) 鳥の尾の肉、あぶらまり。
ひたん 悲歎(名) かなしみなげくと、「一の涙」。
ひたん 飛濺(名) 水流のいとはやき潮。

ひちん 微塵(名) こまかきちり。
せつ 微塵説(名) 一種の塵を掃除するものにして、此の塵、眼を刺激して光を感ぜしむといふ、ニッポンの唱へたる説なれど、光に関する種々の現象発見せらるるに及び、此説は破る、に至れり。



ひつかり 筆耕(名) 賃金を受けて寫字をなす事。
ひん 筆耕硯田(名) 筆をもつて硯の田を耕す事。
ひんがみ 引屈(名) ひかがみに同じ。

ひつぎ「日嗣」(名) 日の位をつぎたまふ義。天皇の即位を申し奉る語。—の、みこ「日嗣御子」(名) 皇太子を申し奉る語。
ひつぎ「棺」(名) 死者のかばねををさめ納めて葬る匣、くわん。(懸)
ひつぎ「ゆり」(名) 死者のかばねををさめ納めて葬る匣、くわん。(懸)
ひつぎ「畢竟」(副) つまるところ、はては、所詮。
ひつぎ「挽切」(名) ①ひききると。②齒の細き小きなる齧。
ひつぎ「引」(名) ①ひききると。②齒の細き小きなる齧。
ひつぎ「乾附」(名) 自、か四 からびてかたまりつ。
ひつぎ「匹偶」(名) ①つれあひ、めをと。②たぐひ、ともがら。③あひて、とも。
ひつぎ「奥驚」(名) 物事の意外なるにちどろく。—きやうてん「奥驚仰天」(名) いたくちどろくと。—きやうてん「奥驚仰天」(名) ちどろきあわつるさまにいふ語。
ひつぎ「引繰返」(他、副) ①くつがへる。②引繰返す。
ひつぎ「ひつくり」(名) ①ひくひく同じ。②ひつくり「ひつくり」(名) 文詞のあや。
ひつぎ「火附」(名) ①人家に火をつくと。放火、と。②放火したる犯罪人。
ひつぎ「日着」(名) 其日の中に先方に到着する。
ひつぎ「日附」(名) 文書を作成又は差出の日を記すと。—へんからせん「日附變更」

ひつぎ「必携」(名) 必ず携せよと。
ひつぎ「必死」(名) 必ず死すと。
ひつぎ「必至」(名) 必ず其事情の到来すると。
ひつぎ「筆算」(名) ①筆と紙と。②書き算すと。③算用と。④数字を記して運算する算法。珠算の對。
ひつぎ「筆紙」(名) 筆と紙と。①書き算すと。②算用と。③数字を記して運算する算法。珠算の對。
ひつぎ「筆頭」(名) 筆の先頭。
ひつぎ「筆洗」(名) 筆を洗ひよす。
ひつぎ「筆勢」(名) 筆のいきはひ、よてかひかきかた(筆力)。
ひつぎ「筆生」(名) 文字を書きうつすとを專門とするもの、寫字生。
ひつぎ「筆蹟」(名) 書きたる文字のさま、よてかひかきかた(筆力)。
ひつぎ「筆洗」(名) 筆を洗ひよす。
ひつぎ「筆勢」(名) 筆のいきはひ、よてかひかきかた(筆力)。
ひつぎ「筆生」(名) 文字を書きうつすとを專門とするもの、寫字生。

ひつぎ「未」(名) 十二支の第八位。「未」との義を見よ。
ひつぎ「筆蓮」(名) 蓮の種子に屬する草、葉は種圓狀形をなし、花は白色にして八個以上の筒より成り、柱頭は數個に分裂す。觀賞用として栽培せられ、根は藥用に供せらる。
ひつぎ「筆紙」(名) 筆を執りて書きたる人。
ひつぎ「筆者」(名) 筆を執りて書きたる人。
ひつぎ「筆寫」(名) 筆を執りて書きたる人。
ひつぎ「筆匠」(名) 筆を執りて書きたる人。
ひつぎ「筆述」(名) 文書にのたまふこと。
ひつぎ「必自」(名) 必ず自ら。
ひつぎ「必我」(名) 必ず我が。
ひつぎ「必自」(名) 必ず自ら。
ひつぎ「必我」(名) 必ず我が。

ひつぎ—ひつげ

ひつげ—ひつじ

ひつせん「筆船」(名) ぶていれ。
ひつせん「筆戰」(名) 互に文章によりて議論をたゝかはすと。
ひつせん「必然」(名) 必ずあるべきこと。
ひつせん「必然」(名) 必ずあるべきこと。
ひつせん「必然」(名) 必ずあるべきこと。
ひつせん「必然」(名) 必ずあるべきこと。
ひつせん「必然」(名) 必ずあるべきこと。
ひつせん「必然」(名) 必ずあるべきこと。

ひつせん「必然」(名) 必ずあるべきこと。
ひつせん「必然」(名) 必ずあるべきこと。
ひつせん「必然」(名) 必ずあるべきこと。
ひつせん「必然」(名) 必ずあるべきこと。
ひつせん「必然」(名) 必ずあるべきこと。
ひつせん「必然」(名) 必ずあるべきこと。
ひつせん「必然」(名) 必ずあるべきこと。

ひつせん「必然」(名) 必ずあるべきこと。
ひつせん「必然」(名) 必ずあるべきこと。
ひつせん「必然」(名) 必ずあるべきこと。
ひつせん「必然」(名) 必ずあるべきこと。
ひつせん「必然」(名) 必ずあるべきこと。
ひつせん「必然」(名) 必ずあるべきこと。
ひつせん「必然」(名) 必ずあるべきこと。

ひづらーひざ

ひづら「角髪」(名)「シブらの髷」
ひづら「筆力」(名)筆のちから、筆のいき
ひづら「筆力」(名)筆のちから、筆のいき
ひづら「筆力」(名)筆のちから、筆のいき

ひざーひざら

ひざ「肥土」(名)おもに砂土及粘土より成りたる
ひざ「肥土」(名)おもに砂土及粘土より成りたる
ひざ「肥土」(名)おもに砂土及粘土より成りたる

ひざらーひざが

ひざら「人請」(名)「奉公人の身元引受」
ひざら「人請」(名)「奉公人の身元引受」
ひざら「人請」(名)「奉公人の身元引受」

ひざきーひざく

ひざき「棺」(名)死骸を納むる匣、ひつぎ、くわ
ひざき「棺」(名)死骸を納むる匣、ひつぎ、くわ
ひざき「棺」(名)死骸を納むる匣、ひつぎ、くわ

ひざくーひざさ

ひざく「人眼」(名)人の居らぬ所
ひざく「人眼」(名)人の居らぬ所
ひざく「人眼」(名)人の居らぬ所

ひざしーひざだ

ひざし「均」(形)「二」よくそあひてあ
ひざし「均」(形)「二」よくそあひてあ
ひざし「均」(形)「二」よくそあひてあ

ひざまーひざめ

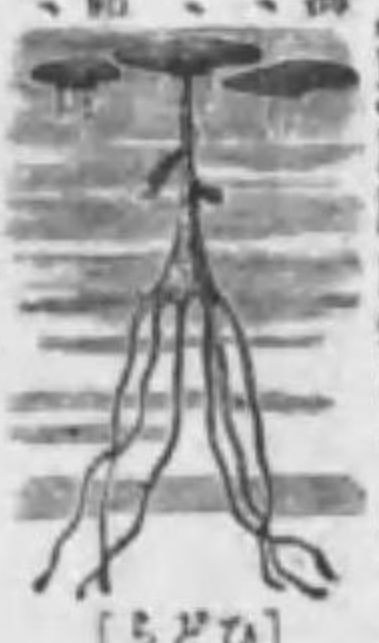
ひざまづ「一先」(副) 何はともあれ、まづ。
ひざまどめ「一纏」(名) 一つにまとむると、一つに、と。

ひざめーひざよ

ひざめ「火止」(名) 採取したる石油を精製して、揮発油及粘油を去り、引火點を高くならしむる。
ひざめか「すげ」(他、名) ひとめかしくす。

ひざよーひざり

ひざよせ「人寄」(名) 人を引き寄すと。
ひざよせ「人別」(名) 人々によりて區別すると。



[らどひ]

ひざりーひざり

ひざりか「火採籠」(名) 火採にむはひて、衣をかき香をたきこむるに用ふる籠。
ひざりがち「獨勝」(名) 他人はことごとく負け、たゞひとり勝を占め得たる。

ひざりーひざる

ひざりふし「獨臥」(名) ひとりね。
ひざりふたい「獨舞臺」(名) 其役者たゞ一人舞臺にありて伎を演ずると。

ひざわーひなぎ

ひざわき「人別」(名) 人々の差別。
ひざわね「人笑」(名) ひとわらはれ。

ひなげし

ひなげし(名) 蕪野に自生す、葉の形なして似て、稍薄く、花は小形青紫色にして、桔梗に似る。いはばきやう、ひめぎきやう。(細葉沙参)
ひなげし(名) 蕪野に自生す、葉の形なして似て、稍薄く、花は小形青紫色にして、桔梗に似る。いはばきやう、ひめぎきやう。(細葉沙参)
ひなげし(名) 蕪野に自生す、葉の形なして似て、稍薄く、花は小形青紫色にして、桔梗に似る。いはばきやう、ひめぎきやう。(細葉沙参)

ひなふり

ひなふり(名) 上古、節奏の風に因りて分ちたる歌曲の一曲(東曲)
ひなふり(名) 上古、節奏の風に因りて分ちたる歌曲の一曲(東曲)
ひなふり(名) 上古、節奏の風に因りて分ちたる歌曲の一曲(東曲)

ひなげし

ひなげし(名) 蕪野に自生す、葉の形なして似て、稍薄く、花は小形青紫色にして、桔梗に似る。いはばきやう、ひめぎきやう。(細葉沙参)
ひなげし(名) 蕪野に自生す、葉の形なして似て、稍薄く、花は小形青紫色にして、桔梗に似る。いはばきやう、ひめぎきやう。(細葉沙参)
ひなげし(名) 蕪野に自生す、葉の形なして似て、稍薄く、花は小形青紫色にして、桔梗に似る。いはばきやう、ひめぎきやう。(細葉沙参)

ひなつ

ひなつ(名) 蕪野に自生す、葉の形なして似て、稍薄く、花は小形青紫色にして、桔梗に似る。いはばきやう、ひめぎきやう。(細葉沙参)
ひなつ(名) 蕪野に自生す、葉の形なして似て、稍薄く、花は小形青紫色にして、桔梗に似る。いはばきやう、ひめぎきやう。(細葉沙参)
ひなつ(名) 蕪野に自生す、葉の形なして似て、稍薄く、花は小形青紫色にして、桔梗に似る。いはばきやう、ひめぎきやう。(細葉沙参)

ひのく

ひのく(名) 蕪野に自生す、葉の形なして似て、稍薄く、花は小形青紫色にして、桔梗に似る。いはばきやう、ひめぎきやう。(細葉沙参)
ひのく(名) 蕪野に自生す、葉の形なして似て、稍薄く、花は小形青紫色にして、桔梗に似る。いはばきやう、ひめぎきやう。(細葉沙参)
ひのく(名) 蕪野に自生す、葉の形なして似て、稍薄く、花は小形青紫色にして、桔梗に似る。いはばきやう、ひめぎきやう。(細葉沙参)

ひのく

ひのく(名) 蕪野に自生す、葉の形なして似て、稍薄く、花は小形青紫色にして、桔梗に似る。いはばきやう、ひめぎきやう。(細葉沙参)
ひのく(名) 蕪野に自生す、葉の形なして似て、稍薄く、花は小形青紫色にして、桔梗に似る。いはばきやう、ひめぎきやう。(細葉沙参)
ひのく(名) 蕪野に自生す、葉の形なして似て、稍薄く、花は小形青紫色にして、桔梗に似る。いはばきやう、ひめぎきやう。(細葉沙参)



ひふこーひべつ

(ひふこきふり)「皮膚呼吸」(名)「生」皮膚より炭酸五酸及水分を排出して酸素を攝取すること。

ひへんーひま

「ガラス管、液をいれて少しづつ、點下せしむるに用ふるもの。」

ひまーひまは

(ひま)「披麻」(名)山又は岩などを描くに、麻をひちき散らしたるが如き條にてあらはす。

ひまゆくとま「隠行駒」(名)「ひます」(名)こまに同じ。

ひまゆーひむろ

(ひまゆ)「肥満」(名)こえふとること。

ひめーひめり

ひむろ「氷室」(名)冬の水を夏まで貯蔵して置く室又は山陰などの穴。

ひめかーひめは

ひめか「かみ」(名)「ひま」(名)「ひま」(名)こまに同じ。

ひよりーひらい

眼望して心に兩端を抱くこと。
ひより「字」(名) 葎の葉中にある薄き皮。
ひより「つ・く・す」(名) (白、か四) 足のふもと定まらぬ。ひより「す」(名) 藪藪踏踏。
ひよろひよろ(名) (名) (名) 足のふみどのたしかならざるさまにいふ語(踏踏踏踏)。勢なげに長く伸びたるさまにいふ語。進行の勢なげなるさまにいふ語(踏踏踏踏)。「矢」
ひよろまつ(名) ひよるのひよるゆるゆる。
ひよろめく(名) (白、か四) ひよるのゆるゆる。
ひよわし(名) (形) (二) もろく弱し。ひよわかななり。かよわし。
ヒョーンカツ(名) 伽羅の類の下部なるもの。
ひよん「な」(形) 物事の意外にして好まじからざる。にいふ語「こと」。
ひよんのまき(名) 「種」「ゆす」作の一名。
ひよん「鱈」(名) 「動」喉類中にしん科に属する魚。體黒開黒にして形このしるに似、背部は茶色にして腹部は銀白色なり、體長一尺餘に達す、我國西南海に多し。
ひら「片」(名) 薄くして平らかなるもの、面。あつまり重なりて一物を形成する細片。「花」。「ひら」(名) なたひらかなるもの、ひらたきと。なみ 普通「一待」。「ひらわん」の略言。
ひら「片」(名) 興行の番附。「興行又は開店などの祝儀に送る張紙、而に祝儀の文字又は粗重などをかきたるもの。」「なき下駄」
ひらあしだ「平足駄」(名) 下面の平かにして齒入りであること、ひたあやまり。
ひらあやまり「平過」(名) たゞあやまり。
ひらい「比來」(副) このごろ、ちかごろ。

ひらいーひらが

ひらい「い」(平) (名) 上のすぐなき縁。
ひらい「い」(平) (名) 次條に同じ。
ひらい「ちゆり」(平) (名) (理) 雷の雲ひを避くるための装置、尖端を有する金属製の柱にして、これを屋上に樹立て、家屋との間を絶縁し、導線によりて地板に連絡せしむるもの、電氣を有する雲の其柱頭に近づくとときは、感應によりて柱頭に異名の電氣生ず、此異名の電氣は尖端より徐々空氣中に放電して雲中の電氣を漸々中和せしむ。
ひら「ら」(平) (名) つかる、と、くたがる、と。「一」を來せり。
ひら「ら」(平) (名) 蒲葵の轉音。「種」様欄科に属する植物、熱帯地方に産す、葉は毛羽に似て大く、笠に製し又は屋根を葎ふ料に供せらる。
ひら「ら」(平) (名) びらうりのくるまの略言。「のくるま」(名) びらうりのくるまの略言。
ひら「ら」(平) (名) びらうりのくるまの略言。形(の)にびらうりの葉を裂ききつて垂れたる牛車。又、其打方の紐。金銀をひらたく打つと、又、ひらたく打ちたる金銀。「一」の銀。ひも「平打紐」(名) 打方の平打なる紐。
ひら「ら」(平) (名) 一氣に押し進むこと。
ひら「ら」(平) (名) 設備などに對して、普通の織方の稱、又、其織方の布帛。「瓶」はとど。
ひら「ら」(平) (名) 土器の平形なるもの、浅き。
ひら「ら」(平) (名) いろは四十七文字の稱、さうがなをなまて。
ひら「ら」(平) (名) ものを煮(る)釜。
ひら「ら」(平) (名) た、きがね。
ひら「ら」(平) (名) ひらたくあき釜。
ひら「ら」(平) (名) ひらたく伏す。

ひらさーひらく

「虎」がらりて。
ひらさ「開」(名) ① ひらくと、あくと、あくと、ひらくと。② はじむると、あくと、あくと、ひらくと。③ さくと、「花の」。④ さはりのとけ去ると、又、さはりをとけ去ると。開拓、開墾。⑤ さすと、種つゆると、「直段の」。⑥ ひらさの入口。結婚儀の宴席より散じ去ると、解散。⑦ さと、「開戸」(名) くる、又は種(さ)などの裝置によりて開閉する戸、まひど。
ひらさ「枝」(名) 「種」ひひらさの略言。
ひらさ「なほ」(名) 「種」ひひらさの略言。
ひらさ「はら」(名) 「種」ひひらさの略言。
ひらさ「ぬ」(名) 「種」ひひらさの略言。
ひらさ「ぬ」(名) 「種」ひひらさの略言。
ひらさ「ぬ」(名) 「種」ひひらさの略言。
ひらさ「ぬ」(名) 「種」ひひらさの略言。
ひらさ「ぬ」(名) 「種」ひひらさの略言。
ひらさ「ぬ」(名) 「種」ひひらさの略言。
ひらさ「ぬ」(名) 「種」ひひらさの略言。
ひらさ「ぬ」(名) 「種」ひひらさの略言。

ひらくーひらひ

なる「胸が」。② たちちのく、温散す。③ はじまる、おこる。④ 智見生ず、まとりつく。⑤ 住宅地又は耕地若しくは道路となる。⑥ さかんになる、よくなる。「運が」。⑦ 人智進歩す、文物發展す。⑧ 入情に通ず、粹にてあり、ひらけた老人。
ひらく「ひ」(平) (名) 馬の首の側面。
ひらく「ひ」(平) (名) 蜘蛛の一種、體扁平にして、夜間壁などを徘徊し、よく蟲を捕(と)ふるもの。「壁紙」。「いと平身低頭したる」と。
ひらく「開」(名) ① ひらくると、世上の事物、人民の知能等の進むと、開化。
ひら「ざや」(平) (名) 鞘の平かなる刀劍、鎌新削暫時行はれたるもの。
ひら「ざむらひ」(平) (名) たゞのさむらひ、おましに同じ。
ひら「あま「平島」(名) 地形のひらたき島。草木なき島。
ひら「あま「平島」(名) 地形のひらたき島。草木なき島。
ひら「あま「平島」(名) 地形のひらたき島。草木なき島。
ひら「あま「平島」(名) 地形のひらたき島。草木なき島。
ひら「あま「平島」(名) 地形のひらたき島。草木なき島。

ひらくーひらひ

ひら「づつみ」(平) (名) ふるあき又はふくさなとの稱。
ひら「づつみ」(平) (名) 常に當直(し)して非番なきと、ながづかへ。
ひら「づら「平面」(名) ひらたき顔。
ひら「て「平手」(名) 開きたる拳(こぶし)。
ひら「て「枚手」(名) 古昔、柏の葉を十枚合はせ、竹釘にて縫(ぬい)ちて、盤の如くにしたる食器の稱、後世、其形をなせる器物の稱。
ひら「と「平戸」(名) 金銀の線を編みたる細工物、初め肥前國平戸島にて製せしよりいふ。
ひら「な「平鍋」(名) 底淺くひらたき鍋。
ひら「ら「平」(副) ① ひらたくたひらに。② ひらたくひらに。③ ひらたくひらに。④ ひらたくひらに。⑤ ひらたくひらに。⑥ ひらたくひらに。⑦ ひらたくひらに。⑧ ひらたくひらに。⑨ ひらたくひらに。⑩ ひらたくひらに。⑪ ひらたくひらに。⑫ ひらたくひらに。⑬ ひらたくひらに。⑭ ひらたくひらに。⑮ ひらたくひらに。⑯ ひらたくひらに。⑰ ひらたくひらに。⑱ ひらたくひらに。⑲ ひらたくひらに。⑳ ひらたくひらに。㉑ ひらたくひらに。㉒ ひらたくひらに。㉓ ひらたくひらに。㉔ ひらたくひらに。㉕ ひらたくひらに。㉖ ひらたくひらに。㉗ ひらたくひらに。㉘ ひらたくひらに。㉙ ひらたくひらに。㉚ ひらたくひらに。㉛ ひらたくひらに。㉜ ひらたくひらに。㉝ ひらたくひらに。㉞ ひらたくひらに。㉟ ひらたくひらに。㊱ ひらたくひらに。㊲ ひらたくひらに。㊳ ひらたくひらに。㊴ ひらたくひらに。㊵ ひらたくひらに。㊶ ひらたくひらに。㊷ ひらたくひらに。㊸ ひらたくひらに。㊹ ひらたくひらに。㊺ ひらたくひらに。㊻ ひらたくひらに。㊼ ひらたくひらに。㊽ ひらたくひらに。㊾ ひらたくひらに。㊿ ひらたくひらに。

ひらつーひらむ

ひら「むらむら「平」(自、か四) ひらくたくなる。ひれふす、平伏す。
ひら「むらむら「平」(自、か四) ひらくたくなる。ひれふす、平伏す。
ひら「むらむら「平」(自、か四) ひらくたくなる。ひれふす、平伏す。
ひら「むらむら「平」(自、か四) ひらくたくなる。ひれふす、平伏す。
ひら「むらむら「平」(自、か四) ひらくたくなる。ひれふす、平伏す。
ひら「むらむら「平」(自、か四) ひらくたくなる。ひれふす、平伏す。
ひら「むらむら「平」(自、か四) ひらくたくなる。ひれふす、平伏す。
ひら「むらむら「平」(自、か四) ひらくたくなる。ひれふす、平伏す。
ひら「むらむら「平」(自、か四) ひらくたくなる。ひれふす、平伏す。
ひら「むらむら「平」(自、か四) ひらくたくなる。ひれふす、平伏す。

ひらむーひらわ



ひらき—ひりひ

ひらき「平緒」(名) 昔時、東帯の時、腰より袴の上



〔を〕

ひりび—ひる

ひりび「ひり」(名、副) 布帛などのさくさく音のさま

ひる—ひるさ

ひる「蒜」(名) 「種」百合科に属する草、各地に自

ひらき「微力」(名) 「びりよく」に同じ。

ひり「ひり」(名、副) 「ひりひりに同じ。

ひる「ひる」(名、副) 「ひるひる」に同じ。

ひらき「平緒」(名) 昔時、東帯の時、腰より袴の上

ひらき「微力」(名) 「びりよく」に同じ。

ひり「ひり」(名、副) 「ひりひりに同じ。

ひる「ひる」(名、副) 「ひるひる」に同じ。

ひらき「微力」(名) 「びりよく」に同じ。

ひらき「微力」(名) 「びりよく」に同じ。

ひり「ひり」(名、副) 「ひりひりに同じ。

ひる「ひる」(名、副) 「ひるひる」に同じ。

ひらき「微力」(名) 「びりよく」に同じ。

ひらき「微力」(名) 「びりよく」に同じ。

ひり「ひり」(名、副) 「ひりひりに同じ。

びんごーびんま

り少なきと。――赤やう(貧血症)一名貧血なる病質。
びんご(備後)一名「びんご」もての略言。――
れもて(備後表)一名 備後國より産出する上等の番茶、こひげの茎も織りたるもの。
(びんご) (名) 外國人の入朝して買物をさしぐる。



びんまーびんた

(びんま) (名) 休息する部屋。
(びんた) (名) 休息する部屋。
(びんま) (名) 休息する部屋。
(びんた) (名) 休息する部屋。

びんたーびんば

びんた(品致)一名 品致。
びんば(品致)一名 品致。
びんた(品致)一名 品致。
びんば(品致)一名 品致。

びんばーびんみ

ゆりうごかすと。――ゆるぎ(貧乏搖)一名前條に同じ。
(びんば) (名) 貧乏。
(びんみ) (名) 貧乏。

びんらーふ

ふ(音) 音。
びんら(音) 音。
ふ(音) 音。
びんら(音) 音。

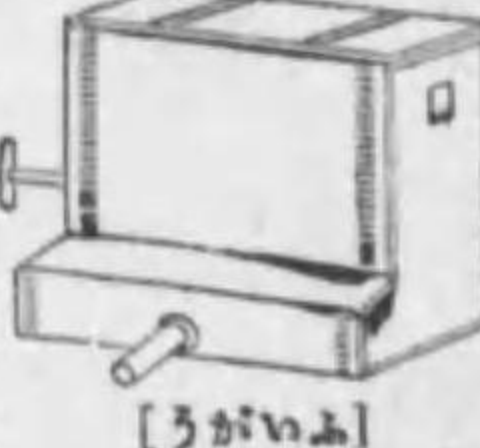


ふーふ

ふ(音) 音。
ふ(音) 音。
ふ(音) 音。
ふ(音) 音。

ふ 符(名) はらわた。
 (ふ)符(名) かりふだ。わりふ。②ふるし。あかし。
 (ふ)婦(名) をんな。美。つま。よめ。
 (ふ)夫(名) をとこ。をと。一。お。
 (ふ)計(名) 死のあせ。
 (ふ)封(名) ふう。に同じ。
 (ふ)封(名) 経(自、は下二) 過ぎ行。移り行く。経験す。たつ。
 (ふ)不(接頭) 或語の上につき、其意義を打消す語。「本意」。
 (ふ)分(名) 一寸の十分の一。一兩の四分の一。一文の十分の一。①一の百分の一又は十分の一の稱。②扁平なるもの。即ち板の如きもの。厚さ。「が厚い」。
 (ふ)歩(名) 地積の單位、即ち六尺四方にして坪に同じ。②わりあひ。ぶあひ。
 (ふ)部(名) ①物事の區分、こわけ。②物事の方。かたつら。「上の」。「書物の全體」。「一〇〇巻」。
 (ふ)夫(名) 夫役の人夫。役夫。
 (ふ)武(名) たけきと。と。し。きと。威力をもて、暴を禁。兵を裁。むと。軍事。兵事。③軍事に長じたると。敵を破るに巧。なる。④いきはひ。威力。⑤半歩の長さ。
 (ふ)不(接頭) 同上。不。意氣。
 (ふ)不(接頭) 或語に冠して其義を打消す語。「用心」。「作法」。

ふ 符(名) 思いまうけざると、思ひよらぬに。意外。をくちらふ。不意にたかひらるるに。ふ語。
 (ふ)布衣(名) 無官位の人。匹夫。
 (ふ)不(無異) 名。異状なきと。かはりなきと。「不」。「無事」。「無患」。
 (ふ)不(無事、無患) 名。無事。無患。
 (ふ)不(無事、無患) 名。多く資産を有(もつ)と。かねもち。ものもち。
 (ふ)不(無異) 名。異状なきと。かはりなきと。「不」。「無事」。「無患」。
 (ふ)不(無事、無患) 名。多く資産を有(もつ)と。かねもち。ものもち。
 (ふ)不(無異) 名。異状なきと。かはりなきと。「不」。「無事」。「無患」。
 (ふ)不(無事、無患) 名。多く資産を有(もつ)と。かねもち。ものもち。



ふ 符(名) はらわた。
 (ふ)符(名) かりふだ。わりふ。②ふるし。あかし。
 (ふ)婦(名) をんな。美。つま。よめ。
 (ふ)夫(名) をとこ。をと。一。お。
 (ふ)計(名) 死のあせ。
 (ふ)封(名) ふう。に同じ。
 (ふ)封(名) 経(自、は下二) 過ぎ行。移り行く。経験す。たつ。
 (ふ)不(接頭) 或語の上につき、其意義を打消す語。「本意」。
 (ふ)分(名) 一寸の十分の一。一兩の四分の一。一文の十分の一。①一の百分の一又は十分の一の稱。②扁平なるもの。即ち板の如きもの。厚さ。「が厚い」。
 (ふ)歩(名) 地積の單位、即ち六尺四方にして坪に同じ。②わりあひ。ぶあひ。
 (ふ)部(名) ①物事の區分、こわけ。②物事の方。かたつら。「上の」。「書物の全體」。「一〇〇巻」。
 (ふ)夫(名) 夫役の人夫。役夫。
 (ふ)武(名) たけきと。と。し。きと。威力をもて、暴を禁。兵を裁。むと。軍事。兵事。③軍事に長じたると。敵を破るに巧。なる。④いきはひ。威力。⑤半歩の長さ。
 (ふ)不(接頭) 同上。不。意氣。
 (ふ)不(接頭) 或語に冠して其義を打消す語。「用心」。「作法」。

ふ 符(名) 思いまうけざると、思ひよらぬに。意外。をくちらふ。不意にたかひらるるに。ふ語。
 (ふ)布衣(名) 無官位の人。匹夫。
 (ふ)不(無異) 名。異状なきと。かはりなきと。「不」。「無事」。「無患」。
 (ふ)不(無事、無患) 名。無事。無患。
 (ふ)不(無事、無患) 名。多く資産を有(もつ)と。かねもち。ものもち。
 (ふ)不(無異) 名。異状なきと。かはりなきと。「不」。「無事」。「無患」。
 (ふ)不(無事、無患) 名。多く資産を有(もつ)と。かねもち。ものもち。
 (ふ)不(無異) 名。異状なきと。かはりなきと。「不」。「無事」。「無患」。
 (ふ)不(無事、無患) 名。多く資産を有(もつ)と。かねもち。ものもち。

ふいちーふうい

ふうりーふうが

ふうきーふうさ

ふえーふか

ふえ(笛)(名)吹き鳴らす樂器、竹、木若しくは金屬の管に數個の孔を明け、息を吹き込みて鳴らすもの。●横笛の特稱。
ふえ(吭)(名)のどぶえ。
ふえ(鱈)(名)〔動〕魚の胸部の骨柱の下にありて骨圓狀をなす皮囊、魚はこれを張り又は縮めて水中の浮沈を自由にする。うをのふえ。うきぶくる(魚肝)。

ふかーふがら

にして長紡錘形をなし全身灰黒色なり、性強暴にして食糧運動迅速なり、多く熱帯の海洋に産す。〔鱈〕
(ふか)〔部下(名)〕一府の区域内。
(ふか)〔浮家(名)〕浮きたる家の船。
(ふか)〔富家(名)〕富みたる家。
(ふか)〔不可(名)〕然るべからざる、可ならざるを、よるしからざる。
(ふか)〔附加(名)〕つけくはふる、そふる。
(ふか)〔負荷(名)〕かつかへ、になふ。

ふがらーふかけ

(ふがら)〔富豪(名)〕富有の人、ものもち、かねもち。
(ふがら)〔負號(名)〕〔歌〕負歌を表示する符號、例へば一と一の前にある「一」なり。
(ふがら)〔鱈目(名)〕一種の食品、鱈の體を乾したるもの、鱈目、鱈魚。
(ふか)〔不可解(名)〕解釋すべからざる、わからぬ。
(ふか)〔可抗力(名)〕〔法〕自己の力にて抵抗すべからざる自然又は人爲の力。
(ふか)〔負角(名)〕〔歌〕廻轉線が時計の針の廻りはりかたと同一に廻轉してなす角。
(ふか)〔俯角(名)〕〔歌〕物體が地平以下にあるとき、地平より其物體までの角距離。
(ふか)〔不覺(名)〕不覺悟の略言。●抽断して失策するを、「一」とする。●根性のあさはかなるを、●そざるを。
(ふか)〔府學(名)〕古昔、太宰府にわかれし學。
(ふか)〔不學(名)〕學問上の知識なきを、無學。
(ふか)〔舞樂(名)〕舞のある樂。
(ふか)〔武學(名)〕〔い〕兵學に同じ。
(ふか)〔深靴(名)〕深く足をおはふ革製の靴。
(ふか)〔不確定(名)〕ふかふか定めざる。
(ふか)〔不覺人(名)〕ふかふかの、に同じ。
(ふか)〔不ぬみだ(不覺涙(名)〕もろろに備さるゝみだ。
(ふか)〔不覺者(名)〕抽断して失策するもの、又、根性のあさはかなるもの。
(ふか)〔附加刑(名)〕〔法〕主刑に附加して科する刑罰、刑罰公權停止公權監視罰金・沒收とす。●ふよふん〔附加刑處分(名)〕〔法〕

附加刑を科する處分。
ふかさ〔深(名)〕表面より下底に向つて測りたる長さ、深き度合。
ふかし〔蒸(名)〕ふかすと、又、ふかしたるもの。
ふかし〔蒸薯(名)〕ふかしたるさつまいも。
―いも〔蒸薯(名)〕ふかして製したる手製の「まん」。
―パン〔蒸薯包(名)〕ふかして製したる手製の「まん」。
ふかし〔形(一)〕●表より底まで長し。ふかさ多し。●外より内まで遠し。あくまりてあり。●片岡のふかき山路。●淺薄ならず。あさはかならず。意味「」。●輕率ならず。かろくしからず。●尋常ならず。かりそめならず。●たけなはなり。ふけてあり。●(關)
(ふか)〔不可思議(名)〕思ひ議(る)るべからざる。●思ひの外に超越してある。●(不思議)
(ふか)〔武頭(名)〕ものがし。
(ふか)〔深(他、三四)〕夜の深くなるまで起きてゐる。夜を「」。
(ふか)〔深(他、三四)〕蒸して熱せしむ。
(ふか)〔附加税(名)〕他の租税に附加し一定の標準によりて徴收する租税、即ち市町村内にて地租又は營業税等に賦課する税の如きこれなり。
(ふか)〔深(他、三四)〕根の深き。
(ふか)〔深(他、三四)〕髪除(の)の別稱、髪が多きを祝ひて呼べる名目なりといふ。
(ふか)〔深(他、三四)〕どろ深き。
(ふか)〔不可知(名)〕知識經驗の外に超越して認識すべからざる。
(ふか)〔不恰好(名)〕恰好のわるき。
(ふか)〔石籠(名)〕〔植〕たがらしの一名。
(ふか)〔深瓜(名)〕皮の際まで瓜を取る。

ふかさーふかづ

ふかでーふかみ

ふかみーふさあ

ふかで〔深手(名)〕おもき負傷、重傷。
(ふか)〔不可得(名)〕〔佛〕言説すべからざる。
(ふか)〔不可入性(名)〕〔理〕二個の物體は同時に同一の場所を占有し得ざる。
(ふか)〔深野(名)〕くまぶかのほら。
(ふか)〔不可能(名)〕できうべからざる。
(ふか)〔不可(名)〕●思惟上に於て矛盾ある。
(ふか)〔符合(名)〕●割符のあふと。●割符を合せたるやうに、びつたりと合ふ。
(ふか)〔附合(名)〕●つけあはすと。又、くつづく。●〔法〕所有者を異にする二個以上の物體が、密着して分離すべからざる。
(ふか)〔不合(名)〕●家風にあはぬ。
(ふか)〔不合格(名)〕●合格せざると。
(ふか)〔不合理(名)〕●合理ならざると。●理にあらぬ。
(ふか)〔不可分債務(名)〕〔法〕權利の目的物が分割して履行すべからざる債務、例へば一個の時計とする債務の如し。
(ふか)〔不可分物(名)〕〔法〕當事者の意思又は法律の規定によりて、分割し得ざる性質なる權利の目的物。
(ふか)〔深間(名)〕●ふかき處。●男女の情交のいと親密なる。
(ふか)〔深(名)〕●ふかきと、又、ふかき度合。●ふかき處。●ふち、深淵。●物事の深くす、み入りて、容易に脱け出でがたきと、「一」にはまる。
(ふか)〔深見草(名)〕〔植〕い、牡丹の異稱。

(ふか)〔富者(名)〕富有の人、ものもち、かねもち。
(ふか)〔負號(名)〕〔歌〕負歌を表示する符號、例へば一と一の前にある「一」なり。
(ふか)〔鱈目(名)〕一種の食品、鱈の體を乾したるもの、鱈目、鱈魚。
(ふか)〔不可解(名)〕解釋すべからざる、わからぬ。
(ふか)〔可抗力(名)〕〔法〕自己の力にて抵抗すべからざる自然又は人爲の力。
(ふか)〔負角(名)〕〔歌〕廻轉線が時計の針の廻りはりかたと同一に廻轉してなす角。
(ふか)〔俯角(名)〕〔歌〕物體が地平以下にあるとき、地平より其物體までの角距離。
(ふか)〔不覺(名)〕不覺悟の略言。●抽断して失策するを、「一」とする。●根性のあさはかなるを、●そざるを。
(ふか)〔府學(名)〕古昔、太宰府にわかれし學。
(ふか)〔不學(名)〕學問上の知識なきを、無學。
(ふか)〔舞樂(名)〕舞のある樂。
(ふか)〔武學(名)〕〔い〕兵學に同じ。
(ふか)〔深靴(名)〕深く足をおはふ革製の靴。
(ふか)〔不確定(名)〕ふかふか定めざる。
(ふか)〔不覺人(名)〕ふかふかの、に同じ。
(ふか)〔不ぬみだ(不覺涙(名)〕もろろに備さるゝみだ。
(ふか)〔不覺者(名)〕抽断して失策するもの、又、根性のあさはかなるもの。
(ふか)〔附加刑(名)〕〔法〕主刑に附加して科する刑罰、刑罰公權停止公權監視罰金・沒收とす。●ふよふん〔附加刑處分(名)〕〔法〕

ふくがーふくけ

(ふくがふく)「複合」(名) 二種以上のものが合して一體を成す。――「たい複合體」(名) 二種以上のものが、合成したるもの。――「どろろ複合動詞」(名) 文法上二個の動詞又は名詞と動詞との複合してなりたる動詞、例へば「(一)と(二)よりかもし(香)と居り」とよりかをる(三)なれるが如し。――「めいぶ複合名詞」(名) 文法上二個以上の名詞の複合してなりたる名詞、例へば「松風・香霞」などの類。

ふくとーふくさ

もの、復権は、主刑を終了して五年を経過したる後、其刑状によりて將來の公権享有の能力を付與せらるるをいふ、破産の宣告を受けて法律上の能力を停止せられたるもの、復権は、債務の清償を完了せしむる又は其所在の知らざる債権者には清償する準備資金あるを證明して破産裁判所に復権の申請をなし、其決定により將來の法律上の能力を回復するをいふ。

ふくざーふくさ

あつかひ方。(ふくざつ)「複維」(名) かさなりまじると、いり(ふくざんぶつ)「副産物」(名) 主たる生産物にそへて生産せらるるもの、例へば農業者が、農作の傍ら牧畜をなし、其牧畜より生ずる貨物の如きをいふ。

ふくろーふくさ

(ふくろ)「福者」(名) 志あはせよき人。(ふくろ)「福車」(名) 車輻の如く一點より其周圍に一直線に射出する。――「ざらぶより」(名) 輻射相稱(名) (動) 棘皮動物の體の各部が其中軸の周圍に射出する。――「せん」(輻射線) (名) (理) 一點より其周圍に一直線に射出する波の方向、即ち光線・熱線の如きこれなり。

ふくろーふくす

(ふくろ)「復心」(名) はらとむねと。心のわく底。①いと大事の輔佐(股肱)の臣。――「をろく」(布腹心) 心中を打明かすにいふ。

ふくろーふくせ

(ふくろ)「復」(他) ①かへす、もどす。②重ねてなす。くりかへす。③補償す、つぐなふ。④報酬す、むくゆ。⑤返答す、こたふ。⑥上申す、まうす。

ふくろーふくさ

ふくろーふくす

ふくろーふくせ

ふくせーふくち

準備として、前段に於て暗々裏にのこむこと。後... (ふくせん) 復選(名) 再び當選すること。(ふくそち) 福湊(名) 福の縁にあつまるが如き縁寄りあつまること。

ふくちーふくひ

へたる煎茶、部分又は大晦日などの縁起に飲むも... (ふくちう) 腹中(名) はらのうち。(ふくつ) 不届(名) 届さざると、くじけざること。

ふくひーふくべ

各比に對しての稱。 (ふくひ) 腹誹(名) 口には出さざれど、心にはせしりてあること。(ふくびき) 福引(名) 餘孽などに觸引きをもて物を分かつこと。

ふくすーふくせ

++ふくべ [河豚] (名) 動物。ふくべの古稱。(ふくへい) [伏兵] (名) ふせせい。「むと。(ふくへき) [腹壁] (名) 腹壁の内壁。

ふくめーふくら

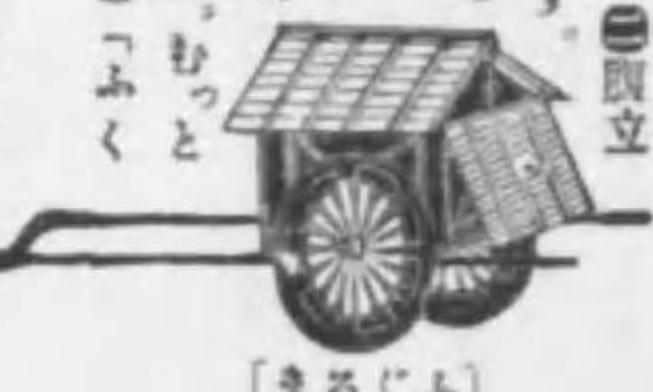
の志たがひ守るべき規則「官吏」。 (ふくめい) [復命] (名) 命を受けたる事をへて、其始末を上申すること。かへりまうし。「書」。

ふくらーふくら

紋所の名、服れたる子雀を正面より見たるさまを... (ふくら) 腹(名) ふくると。又、ふくられたるさふくらむむはひめ死(腹) (自、ま四) ふくられて太くなる、ふくら。

ふくろ

もちあがる。はれあがる。膨脹。腹立



ふくろ 〔袋〕(名) 布、紙、革などをもてつくり、中に物を入れて口を開き得らるるもの。...

ふくろ

物(名) 紙、入、煙草入などの稱。

ふくろく 〔復縁〕(名) もとの秩縁にもどると。ふくろく 〔福縁〕(名) 福と縁と。...

ふくわ

つる金。

ふくわく 〔負郭〕(名) 城郭を背にする勢。城下に近きと。一ノ田。ふくわけ 〔福分〕(名) 祝賀の物又はもらひ物などを分けて人に贈ると。...

〔ふくろ〕(名) 年長者の尊稱。...

〔ふくろく〕(名) 復縁。もとの秩縁にもどると。...

〔ふくわ〕(名) 賦課金。

〔ふくわく〕(名) 負郭。城郭を背にする勢。...

〔ふくろく〕(名) 復縁。

〔ふくわけ〕(名) 福分。祝賀の物又はもらひ物などを分けて人に贈ると。...

ふくろ

〔ふくろく〕(名) 復縁。

ふくろ

〔ふくろく〕(名) 復縁。

ふくろ

〔ふくろく〕(名) 復縁。

ふしづーふしま

けを説く。
++ふしづけ【柴漬】(名) 柴を水に漬けおき、魚を
寄せて抽ふる乾置のもの。 (作曲)
ふしづけ【節附】(名) 歌謡のふしをつくること。
++ふすつけ【不仕附】(名) 體を缺りとく、作法
なきと。 ①だしぬけ。 ②骨。
ふしづ【臥所】(名) ねどころ。 ねどころ。 ねや。
++ふしづところ【臥所】(名) 前條に同じ。
ふすなやせ【富士名焼】(名) 出雲國富士名村
より産出する阿斐、黃色にして質脆し、一に出雲焼
といふ。
ふすのくすり【不死薬】(名) ながいきするく
ふしのこ【五倍子粉】(名) 五倍子を乾して粉
にしたるもの。
++ふしは【伏葉】(名) ふしたるは。
ふしはかせ【節博士】(名) 諸物の文の傍に墨も
て、節の高低長短を示せる符號。 (墨譜)
ふしはず【節管】(名) 竹の節にてつくりたる管。
ふしはち【没食子蜂】(名) (動) 腹翅類に屬する
昆蟲、植物の葉を刺すし、毒を注ぎて没食
子を生ず。
++ふすはつこ【富士八湖】(名) 富士山の麓に散在
せる八個の湖。 即ち、浮島湖、活川口、山中湖、木島
湖、精進湖、四尾湖。
++ふすびたひ【富士額】(名) 婦人などの額の髪
の生際(すは)の富士山の形に似たるもの、額小さく髪
ちとして費ふ。
ふしふし【節節】(名) 彼此のふし。 各處のふし。
++ふすふし【不十分】(名) 十分ならざる。
ふしほね【節骨】(名) 關節の骨。 (骨弓)
ふしまさのゆみ【節卷弓】(名) 節々をまきた

ふしまーふすや

++ふしまちのつぎ【臥待月】(名) ねまちのつ
ぎ(寐待月)に同じ。
++ふすまつ【不始末】(名) 始末の上からぬ。
++ふすまつ【富士松】(名) 植(カ)まつに同じ。
「ふままつぶしの時言。 ー」ふし【富士松節】
(名) 神樂の一種。 富士松摩擦の創始したるも
の、新内面などこれより轉化する。
ふしまろ【ふすま】(名) 伏してあ
なたにたにまる。
++ふすみ【不仁身】(名) 打ちても痛くみず切られ
ても直に癒ふやといふ性質の身體。 (不死身)
++ふすみさいさ【西行法師】(名) 富士山をながめ居る。
++ふすみみなみ【富士南】(名) 西南より吹く風。 (關
東地方の方言)
ふしみ【伏見】(名) 伏見人形 (名) 山城
國伏見よりつくりに出た人形。 (ぶくと)
ふしめ【伏目】(名) うつぶせて見ると、又、うづ
ふしめ【節目】(名) 材木の節のある處。
++ふすや【府社】(名) 府より幣帛を奉る格の神社。
++ふすや【附子矢】(名) どのつきのや。
++ふすや【歩射】(名) かちゆみ。 (下官)
++ふすや【府生】(名) 六衛府及檢非違使等の
++ふすや【不正】(名) 正しからぬ。
++ふすや【不祥】(名) さがなきと、えんぎの
あること。 めでたからざる。 (不吉)
++ふすや【不詳】(名) つまびらかならざる
こと。 よく忘れざること。
++ふすや【不生】(名) (佛) い見思の惑を斷
じて三界に生を受けざること。 (る) あたらに生ぜざ
る。
++ふすや【不承不承】(名) 副) 不
承知ながら止むを得ず。 (い) や／＼ながら。
++ふすや【不如歸】(名) (動) 支那にて、其鳴
聲が旅行先にあるものに不如歸(かへる)にさかず
と聞ゆといふよりいふはととを異稱。
++ふすや【扶助金】(名) 扶助のために與
ふる金。 官吏などの遺族に給與する一時賜金。
++ふすや【扶植】(名) うゝ。 りと。 ①たつる
を。 (功名をいす)
++ふすや【腐蝕】(名) くされて形のかくると。
又、くさらして形をこなふと。
++ふすや【無職】(名) 一定の職業なきと。
++ふすや【無職渡世】
(名) あずび人などの如く、一定の職業なき渡世。
++ふすや【海辱】(名) あたりはじしむると。
++ふすや【腐植土】(名) 多量の植物質を含む
土。
++ふすや【扶助料】(名) 扶助のために
給與する金。 官吏などの遺族に成年期間給與
する金。
++ふすや【不印】(名) 上からぬ。 かもえろから
ふしをがみ【伏拜】(名) 神社の手伏して拜む
場所。 古昔は神社の入口に設け、不淨の者を防いだ
ぬ木を横へたり。 ①通拜。
ふしをがむ【むひめ】【伏拜】(他、ま四) ①ひれふし
て拜む。 ②通拜。
フ、シ、ン【普請】(名) (字)の宋音。 (佛) あまねく
同志に請ひて、共に事をなすと。 ①建築、作事。
++ふすん【不審】(名) ①(疑) ②(か) ③(なら) ④(い
ふ) ⑤(かし) ⑥(疑) はしき。
++ふすん【不臣】(名) 臣たる道にそむくと、又、君

ふすやーふすゆ

++ふすや【負傷】(名) けが。 てあひ。
++ふすや【赴請】(名) (佛) 僧侶が施主の請ひ
によりて佛事を修めに行くこと。
++ふすや【不淨】(名) ①清淨ならざること。 け
がれたること。 ②月經(婦人の語)。 ③大小便。
++ふすや【武將】(名) ①軍陣の將。 ②武進に
長けたる將。
++ふすや【不精】(名) あたりたりて物事をなほざ
りにする。 ①なまけて汚穢をも嫌はざること。(無性)
++ふすや【不正直】(名) 正直ならざ
ること。 ①つはり多きと。 ②かけひなたあると。
++ふすや【不淨場】(名) ①けがらはしき場
所。 ②大小便する場所。
++ふすや【不生不滅】(名) (佛) 生
じもせず滅しもせず、即ち眞如實相の存在にいは
す。
++ふすや【不精者】(名) 不精なる性行
++ふすや【不淨門】(名) 下座をかづ
ぎて出入し又は死者などを送り出すための門。
++ふすや【不淨役人】(名) 罪
人を取扱ふ役人。
++ふすや【不死藥】(名) ふたのくすり。
++ふすや【不仁めい】(名) 不惜身命 (名) (佛) 身
命ををしまざること。
++ふすや【奉射的】(名) 古昔、武家に用ひた
る正式的的。
++ふすや【不輸】(名) 租税を
上納せざること。 (の) 地。
++ふすや【腐儒】(名) 役に立
たぬ學者。 ①(さ) 腐儒者。
++ふすや【不充足】(名) 充分ならざること。



【とまやぶ】

ふすゆーふすよ

完全ならざること。
++ふすゆかん【佛手柑】(名) 檀云香料に屬す
る木、暖地に産す。 葉は木犀に似、全葉にして香氣あ
り、果實は柚子に似て大きく、先端は分裂して指を
列するが如し、熟して黃色となる。
++ふすゆく【不熱】(名) 熱せざること。 (一)の果
物。 (二)をりあひあしきと。 和合せぬと、「一家」
(三)ならざること。
++ふすゆくてん【不輸租田】(名) 古昔、租を官
にせよめしめずして其地の領主に與へし田。
++ふすゆつ【撫恤】(名) かばひあはれむと。
++ふすゆつ【武術】(名) ぶげい。 (武藝)に同じ。
++ふすゆきや【武術修行】(名) 武術を
修行するたためらふこと。
++ふすゆひ【不首尾】(名) ①首尾懸しきと、氣受
懸しきと。 ②結果あしきと。 成功せざること。
++ふすゆふせ【不受不施派】(名) (佛) 日蓮
宗の一派、文祿四年、備前國妙覺寺の僧日興より始
まる。 徳川時代には禁止せられ、明治九年に至りて
許可せらる。
++ふすゆん【不順】(名) 時候などの常の順に違ひ
++ふすよ【扶助】(名) 力をそふる。 ①たすくと。
++ふすよ【部署】(名) てくばり。 てわけ。
++ふすよ【覺鐘】(名) 十二律の。
++ふすよ【不承】(名) ①不承知。 ②(い)や／＼な
から承知すること。
++ふすよ【不勝】(名) 身體のすぐれざること、氣分
の上からぬと、(不例)
++ふすよ【不承知】(名) 承知せざること。 うけ
あはぬと、き、いれぬと。

ふすよーふすん

++ふすより【不承不承】(名) 副) 不
承知ながら止むを得ず。 (い) や／＼ながら。
++ふすよき【不如歸】(名) (動) 支那にて、其鳴
聲が旅行先にあるものに不如歸(かへる)にさかず
と聞ゆといふよりいふはととを異稱。
++ふすよきん【扶助金】(名) 扶助のために與
ふる金。 官吏などの遺族に給與する一時賜金。
++ふすよき【扶植】(名) うゝ。 りと。 ①たつる
を。 (功名をいす)
++ふすよき【腐蝕】(名) くされて形のかくると。
又、くさらして形をこなふと。
++ふすよき【無職】(名) 一定の職業なきと。
++ふすよき【無職渡世】
(名) あずび人などの如く、一定の職業なき渡世。
++ふすよき【海辱】(名) あたりはじしむると。
++ふすよき【腐植土】(名) 多量の植物質を含む
土。
++ふすよき【扶助料】(名) 扶助のために
給與する金。 官吏などの遺族に成年期間給與
する金。
++ふすよし【不印】(名) 上からぬ。 かもえろから
ふしをがみ【伏拜】(名) 神社の手伏して拜む
場所。 古昔は神社の入口に設け、不淨の者を防いだ
ぬ木を横へたり。 ①通拜。
ふしをがむ【むひめ】【伏拜】(他、ま四) ①ひれふし
て拜む。 ②通拜。
フ、シ、ン【普請】(名) (字)の宋音。 (佛) あまねく
同志に請ひて、共に事をなすと。 ①建築、作事。
++ふすん【不審】(名) ①(疑) ②(か) ③(なら) ④(い
ふ) ⑤(かし) ⑥(疑) はしき。
++ふすん【不臣】(名) 臣たる道にそむくと、又、君

ふすんーふすん

主に反抗すること。
++ふすん【不信】(名) まことなきと、いつはり多き
++ふすん【不仁】(名) いつくしみの心なきと、愛
情なきと。 ①徳義にそむくと。 人道にかけたる。
②身體麻痺して感覺のなきこと。
++ふすん【婦人】(名) をんな。 女子。
++ふすん【夫人】(名) ①妾にて、天子の妃又は諸
侯の妻の稱。 ②我國にて、古昔は女官の稱。 後世は
貴人の妻の稱。
++ふすん【不盡】(名) ①つきざること。 ②たえぬと。
③尺牘文の末に用ふる語。 ④わりきれざること。
++ふすん【武神】(名) いくさがみ。
++ふすん【武臣】(名) 武家。 武士。
++ふすん【武人】(名) つはもの。 軍人。 武士。
++ふすん【不信仰】(名) 信仰なきと。 信仰
せざること。
++ふすん【不審紙】(名) 書中の不審ある箇所
のあらしに貼(り)あき紙、多くは紅唐紙を用ふ。
++ふすん【不盡根數】(名) (數) 無理數
の別稱。 其數零以下盡くるとなきよりいふ、例へば
 $\sqrt{2}$ 、 π 、 e の如し。
++ふすん【不眞實】(名) 眞實ならざること。 ①ま
ことならざること。
++ふすん【不盡數】(名) (數) 割り切れざること。
++ふすん【不親切】(名) 親切ならざること。 ①丁
罪ならざること。
++ふすん【不信任】(名) 信任せざること。 信任
++ふすん【不信任】(名) 信任せざること。 信任
++ふすん【不信任】(名) 信任せざること。 信任
++ふすん【不信任】(名) 信任せざること。 信任
++ふすん【不信任】(名) 信任せざること。 信任

ふたもふたん

ふたもの「蓋物」(名) 蓋のある器物の總稱。又、蓋のある陶器の特稱。

ふたゆふゆふ「二行(自、か四)」二すど道を行く。一つ所を再度とほり行く。

ふたよふよふ「二夜草」(名) 「植」すみれ」の異名。

ふたより「二回」(名) 副。ふた、び。

ふたよ「補陀落」(名) 「佛」梵語 Patika、海島又は寶陀と譯す。「インド」河口にある島の名。観音の出現せる地と傳せられ、観音の靈現に關するに用ひらる。語。「や」岸打つ波は柳鹿野の那智の脚山にひびく瀧津瀬。

ふたり「二人」(名) 二個人。兩人。一。あづか「二人静」(名) 「植」金粟菴科に屬する草。陸地に生ず、葉の高き一尺許、葉はあぢまみに似、細き鋸歯を具し四個對生す、花は小圓形にして白色を呈し葉生す。つぎね(及)。

ふたり「喧」(副) 「ふた」に同じ。

ふたり「負擔」(名) 眞さ(ひ) 量。ぐと、又、其荷。身上に引き受くと、又、其事。

ふたん「不斷」(名) 絶えざる。絶間なきこと。「の香」。平生、平常。一。き「不斷着」(名) 家に居て平常着る衣服、便服。一。ざくら「不斷櫻」(名) 「植」櫻の一種、花は彼岸櫻に似、初春の頃に開く。一。な「不斷菜」(名) 「植」「たう」ぎさ」の一名。

ふたん「武斷」(名) かしつて事を行ふと、力を恃(た)みはしいま、にふるまふと。軍隊の威力を後援として政務を斷行する。兵力を中心として政治を斷行する。文治の對。一。せいち「武斷政治」(名) 武力を中心として斷行する政治。一。は「武斷派」(名) 武斷政治の主義若しく

ふちふち

は傾向を把持する流儀。

ふち「淵」(名) 水の深くた、へたる處。「淵」。

ふち「縁」(名) へり、めぐり、まはり。刀のつかの縁(と)と接する處を包む(と) 金物。

ふち「班」(名) 「ふち」に同じ。

ふち「扶持」(名) いたすけたもつと、たすくると。ふちまい、律米。

ふち「不治」(名) なはらぬと。

ふち「不智」(名) 智愚なきと、かしこからざる。ふち「布置」(名) 位置をくばりおくと、くばりまくると。

ふち「附置」(名) 附屬してまうけおくと。ふち「藤」(名) 「植」豆科に屬する植物。藤葉を有し、葉は羽狀複葉なり、花は白色又は紫色を呈し、總狀花序に排列す、又は短き密生毛を有す、觀賞用として栽培せられ、葉の纖維も種々の用に供せらる。かづら、つら、ふぢかづら、葛。ふぢごちまもの略言。ふぢいりの略言。かかさいの色目、表はうす紫にして裏は青なるもの。

ふち「腰」(名) 「むち」に同じ。

ふち「桴」(名) 「ばち」に同じ。「ヲ、桴」。

ふち「斑」(名) 種々の毛色の雜(れ)れるもの。マダ

ふち「あんない」(名) 「不知案内」(名) 様子を知らざる。勝手を知らざる。不案内。「き」。

ふち「いろ」(名) うすき紫色、うすきうす

ふち「かた」(名) 武家に扶持に關する事を取扱ひし職名。

ふち「かづら」(名) 葛又は藤などの纏繞莖

ふち「くら」(名) 「ふぢかづら」の略言。

ふち「ざりり」(名) 「藤倉草履」(名) 種にてつく

ふちこふちば

ふちこふちば「す」(名) 「打」(他、三四) ことはす。やぶる。

ふちこ「むむむむ」(名) 「打」(他、三四) 入れこむ。

ふちこ「藤行李」(名) ふぢかづらにてつく

ふちこ「藤衣」(名) 葛布にて仕立てたる下民の衣服。葛布にて仕立てたる褌衣、襪衣。

ふちこ「藤細工」(名) ふぢかづらの編工。

ふちこ「藤澤菊」(名) 「植」「さはをぐ」の一名、菊舌草。

ふちこ「府知事」(名) 府の知事。「所と」。

ふちこ「淵瀬」(名) ふちとせと、又、深き所と淺き所と。ふちこ「藤」(名) 藤を伸ばしまとはしむるための綱(藤架)。

ふちこ「藤」(名) 古昔禁中の飛香れり會の一名。切甲類に屬する節肢動物。海岸の岩礁等に生ず、石灰質の介殼を有し盛狀をなす、盛狀の脚を動かして食物を捕取す。

ふちこ「藤」(名) 「ふぢかづら」に同じ。

ふちこ「藤」(名) 前條に同じ。

ふちこ「藤」(名) 藤の海苔(名) 備前國藤戸に産するふちのり、うさぎのり。

ふちこ「藤」(名) 「植」「たんび」の古稱。ふちこ「藤」(名) 藤の花の動くさまを波に見立て、いふ語。轉じて、藤の花の稱。

ふちこ「藤」(名) ふぢごちまもの稱。

ふちこ「藤」(名) ふぢごちまものをつけたるやつれがた。

ふちこ「藤」(名) 「植」菊科に屬する草。山野



【まかばぢぶ】

ふちよふちゆ

に自生す、莖圓くして節長し、葉は節に對生し、狭長にして鋸齒を具し香氣を有す、花は小形淡紫色にして枝端に生ず(蘭草)。

ふちよ「藤」(名) ふぢづるをかけたした

ふちよ「藤」(名) 藤の胸にある藤の花のまき(似たる) 藤生。

ふちよ「扶持米」(名) 扶持として給與する

ふちよ「く」(名) 他、か下(二) 器物をくつがへして、中にあるものをらしまふ。つ、みかくさ(す)にいふ、打ち明けていふ。名。

ふちよ「め」(名) 「藤」いんげんまめ」の一名。

ふちよ「茶」(名) 茶(て)の精選料理。

ふちよ「府廳」(名) 府知事が其權限に屬する事務を處理する所。

ふちよ「符帳」(名) 商家にて、物品の直段などを隱語にて記せるもの。符丁。相圖の隱語。あひことば。

ふちよ「不定」(名) 定まらざる。たしかならざる。老少。

ふちよ「部長」(名) 部局長。巡查部

ふちよ「不着」(名) 到着せざる。長。

ふちよ「附着」(名) よりきひて離れざる。合して分れぬ。つく。りよく「附着力」(名) 「理」異なる物質が其接近するときに密着せんとする力、即ち異なる物質間の分子力、水滴の様に附着するが如きは此力による。

ふちよ「府中」(名) 「こくぶ」(國府)に同じ。

ふちよ「不忠」(名) 忠義ならざる。不忠。

ふちよ「不仕」(名) 住まざる。住するもの。なきと。

ふちよ「不注意」(名) 心をとめざる。注

ふちよふちつち

ふちよふちつち「普通」(名) 一般に用いられる。ふちよふちつち「普通」(名) 一般に用いられる。ふちよふちつち「普通」(名) 一般に用いられる。ふちよふちつち「普通」(名) 一般に用いられる。

音字へ 音方語個一 部古++

ぶつかいぶつき

ぶつかき(名)ぶつかきたるもの「水のー」
ぶつかきり(二日灸)(名)陰暦にて、月の二日
と八日とは爰によき日なりとて、灸をすうると。

ぶつきーぶつけ

ぶつきれる(他、下二)きず
つききり、つききり。
ぶつきく(名)佛前に供するもの。
ぶつきく(名)佛前に供するもの。

ぶつきーぶつた

ぶつき(名)ぶつきたるもの「水のー」
ぶつき(名)ぶつきたるもの「水のー」
ぶつき(名)ぶつきたるもの「水のー」

ぶつあーぶつあ

ぶつあ(佛寺)(名)テラ、寺院。
ぶつあ(佛者)(名)佛門に入りたるもの。
ぶつあ(佛性)(名)佛の性、佛の本性。

ぶつあーぶつた

ぶつあ(佛師)(名)佛を剃りたるもの。
ぶつあ(佛子)(名)佛の弟子。
ぶつあ(佛徒)(名)佛の弟子。

ぶつたーぶつた

ぶつた(佛塔)(名)寺院の塔。
ぶつた(佛智)(名)佛の智慧。
ぶつた(佛殿)(名)佛を安置する所。

ぶつとぶつみ

ぶつとぶつみ (名) 液體の揮騰する温度、特に、水... (ぶつとぶつみ) (名) 液體の揮騰する温度、特に、水の揮騰する温度(寒温計の條を見よ)。

ぶつめふで

ぶつめふで (名) フツめつにちの略言、一、... (ぶつめふで) (名) フツめつにちの略言、一、にち(佛滅日)一名陰陽家にて、萬事に凶なりといふ大悪日、即ち正七月の四、十、十六、二十二、二十八日、二八月の三、九、十五、二十一、二十七、三十一日、二八月の二十五、三十一日、十月の七、十三、十九、二十五、十一月の六、十二、十八、二十四、三十日、十二月の五、十一、十七、二十三、二十九日をいふ。

ふであふでが

ふであふでが (名) 筆を用いて書くこと、又... (ふであふでが) (名) 筆を用いて書くこと、又筆を用いて書きたるもの。文字、文章。一、がたつ、達者に文章をかくもの。文字、文章。一、がたつ、達者に文章をかくもの。文字、文章。一、がたつ、達者に文章をかくもの。

ふでかふでの

ふでかふでの (名) 筆を用いて書くこと、又... (ふでかふでの) (名) 筆を用いて書くこと、又筆を用いて書きたるもの。文字、文章。一、がたつ、達者に文章をかくもの。

ふてのふで

ふてのふで (名) 筆を用いて書くこと、又... (ふてのふで) (名) 筆を用いて書くこと、又筆を用いて書きたるもの。文字、文章。一、がたつ、達者に文章をかくもの。

ふていふでが

ふていふでが (名) 筆を用いて書くこと、又... (ふていふでが) (名) 筆を用いて書くこと、又筆を用いて書きたるもの。文字、文章。一、がたつ、達者に文章をかくもの。

ふなま—ふにま

ふなまど(船窓)(名) 船のあかりまど。(窓窓)
ふなまど(船窓)(名) 船路に迷ふ。
ふなまど(船窓)(名) 船のせてあかりと
ふなまど(船窓)(名) 船のせてあかりと
ふなまど(船窓)(名) 船のせてあかりと
ふなまど(船窓)(名) 船のせてあかりと
ふなまど(船窓)(名) 船のせてあかりと
ふなまど(船窓)(名) 船のせてあかりと
ふなまど(船窓)(名) 船のせてあかりと
ふなまど(船窓)(名) 船のせてあかりと
ふなまど(船窓)(名) 船のせてあかりと

ふによ—ふのり

ふによい(不如意)(名) こゝろの健(た)ならず
ふによい(不如意)(名) こゝろの健(た)ならず
ふによい(不如意)(名) こゝろの健(た)ならず
ふによい(不如意)(名) こゝろの健(た)ならず
ふによい(不如意)(名) こゝろの健(た)ならず
ふによい(不如意)(名) こゝろの健(た)ならず
ふによい(不如意)(名) こゝろの健(た)ならず
ふによい(不如意)(名) こゝろの健(た)ならず
ふによい(不如意)(名) こゝろの健(た)ならず
ふによい(不如意)(名) こゝろの健(た)ならず

ふのか—ふはく

ふのかみ(府頭)(名) 衛府の長官。
ふのかみ(府頭)(名) 衛府の長官。
ふのかみ(府頭)(名) 衛府の長官。
ふのかみ(府頭)(名) 衛府の長官。
ふのかみ(府頭)(名) 衛府の長官。
ふのかみ(府頭)(名) 衛府の長官。
ふのかみ(府頭)(名) 衛府の長官。
ふのかみ(府頭)(名) 衛府の長官。
ふのかみ(府頭)(名) 衛府の長官。
ふのかみ(府頭)(名) 衛府の長官。

ふはこ—ふびん

ふはこ(文箱)(名) ふみばこの時書状を入
ふはこ(文箱)(名) ふみばこの時書状を入
ふはこ(文箱)(名) ふみばこの時書状を入
ふはこ(文箱)(名) ふみばこの時書状を入
ふはこ(文箱)(名) ふみばこの時書状を入
ふはこ(文箱)(名) ふみばこの時書状を入
ふはこ(文箱)(名) ふみばこの時書状を入
ふはこ(文箱)(名) ふみばこの時書状を入
ふはこ(文箱)(名) ふみばこの時書状を入
ふはこ(文箱)(名) ふみばこの時書状を入

ふひん—ふへい

ふひん(不備)(名) 完備せざると、そなはらざる
ふひん(不備)(名) 完備せざると、そなはらざる
ふひん(不備)(名) 完備せざると、そなはらざる
ふひん(不備)(名) 完備せざると、そなはらざる
ふひん(不備)(名) 完備せざると、そなはらざる
ふひん(不備)(名) 完備せざると、そなはらざる
ふひん(不備)(名) 完備せざると、そなはらざる
ふひん(不備)(名) 完備せざると、そなはらざる
ふひん(不備)(名) 完備せざると、そなはらざる
ふひん(不備)(名) 完備せざると、そなはらざる

ふへり—ふほし

ふへり(浮標)(名) 海中の暗礁などを知らす
ふへり(浮標)(名) 海中の暗礁などを知らす
ふへり(浮標)(名) 海中の暗礁などを知らす
ふへり(浮標)(名) 海中の暗礁などを知らす
ふへり(浮標)(名) 海中の暗礁などを知らす
ふへり(浮標)(名) 海中の暗礁などを知らす
ふへり(浮標)(名) 海中の暗礁などを知らす
ふへり(浮標)(名) 海中の暗礁などを知らす
ふへり(浮標)(名) 海中の暗礁などを知らす
ふへり(浮標)(名) 海中の暗礁などを知らす

ふゆな—ふよふ

ふゆな「冬菜」(名)「種」たうなに同じ。
ふゆはれり「冬羽織」(名)冬に着る羽織、又は
飾入の羽織。

ふらい—ふらし

ふらい「浮浪」(名)「さすらふ」と「さまよふ」と。
ふらら「父老」(名)としよりたる男子、老人。
ふらら「無賴」(名)一定の職業なく、品行不正な
る者、又其人。——「かん」無賴漢「名」無賴

ふらす—ふらめ

ふらす「下降」(他、三四)ふるやうにすく
ふらす「雁」(他、三四)ふれひるむ。「だす」
フラスコ「Plas」(名)「瓶」加脱。

ふられ—ふり

ふられる「振」(自、下二)遊女など
によくあつかはれず。
ふらり(名、副)「ふらふら」(一)(三)に同じ。
ふらり(名、副)「ふらふら」(二)(三)に同じ。
「ふらり」(名、副)「ふらふら」に同じ。——「ふらりり」
(名、副)「ふらふら」に同じ。

ふり—ふりが

ふり「振」(他、三四)ふるやうにすく
ふり「雁」(他、三四)ふれひるむ。「だす」
フラスコ「Plas」(名)「瓶」加脱。
ふらち「不持」(名)法に外れたると、道にもと
れると、ふとどき。(不法)

ふりか—ふりき

ふりかへ「振替」(名)彼方のものを此方のも
のとなす。
ふりかへし「振返」(名)ふりかへすと、やみ
かへすと。
ふりかへす「振返」(自、三四)一旦
なほりたる病氣更にあこる。
ふりかへちよきん「振替貯金」(名)郵便
貯金の手続によりて、金銭の取引ある人の預金を帳
簿上に受拂をなし相互の貸借を完了せしむる制
度、これが加入者となるには、基本預金として現金
二拾圓を預金所に預け、郵便局に預金すべきものとす、
郵便局管理所にては、人別に預金の受拂をな
すべき加入者名義の口座を設け置、加入者ならざ
るものが加入者として送金を送る場合は、最寄
の郵便局に於て其口座宛て、金を送らば、該郵便
局はこれを管理所に報告し其加入者の口座の預金
となる、又、加入者が加入者に対して金を支拂ふ場
合には、其旨を管理所に請求すれば、其金額を兩者
の口座の間に振替をなす、又、加入者が加入せざる
者に送金する場合は、其旨を管理所に請求すれば、
管理所は其口座より預金を抽出し先方に證書を送
付して、其指定したる郵便局より振替しむる
なり。——「くちぎ」振替貯金口座「名」振
替貯金の加入者名義の口座(前條参照)
ふりかへる「振返」(自、三四)あと
をふりわく、かへりみる。「回頭」

をさうわ めれりち よえゆいや もめむみま はへふひは

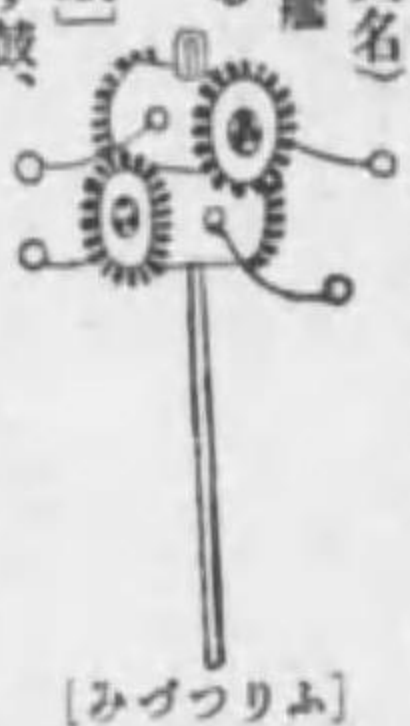
のねめな とてつちた そせすしき こけくきか かえういお

ふりさーふりす

鏡蓋にて蓋(フ)きたる家根... 降りさーふりす... 降りさーふりす... 降りさーふりす...

ふりそーふりつ

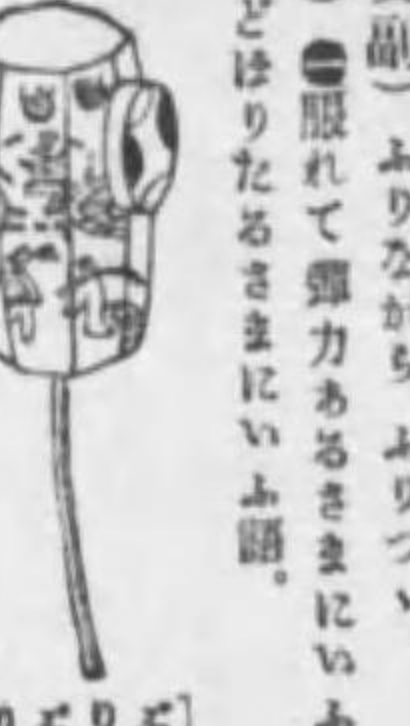
ふりそーふりつ... 降りそーふりつ... 降りそーふりつ... 降りそーふりつ...



[みづつりふ]

ふりつーふりふ

ふりつーふりふ... 降りつーふりふ... 降りつーふりふ... 降りつーふりふ...



[りふりふ]

ふりほーふりわ

長さ四寸許、竹を以て作る、高砂(たかご)の財と純との... 振りほーふりわ... 振りほーふりわ... 振りほーふりわ...

ふりんーふるり

ふりんーふるり... 降りりんーふるり... 降りりんーふるり... 降りりんーふるり...

ふるえーふるえ

ふるえーふるえ... 降りるえーふるえ... 降りるえーふるえ... 降りるえーふるえ...

ふるしーふるひ

地(古跡) ①自分の生れたるものと住地故郷。②以前にかつて住みたる土地。——ひざ(古里人)(名) ③自分の故郷の人。ふるし(形) ④久しき以前より、むかしなり。⑤久しく年月を経たり。ひざり。⑥新しきさまばかりなり。ふるびたり。⑦もとよりありて珍(ツ)しからず。ふるま(風呂敷)(名) ①ふるま(古)の敷。②ふるま(古)敷(名) ③もとの敷。④もと居たるふるま(敷) ⑤ふるま(敷) ⑥使用してふるま(敷) ⑦ふるま(敷) ⑧ふるま(敷) ⑨ふるま(敷) ⑩ふるま(敷) ⑪ふるま(敷) ⑫ふるま(敷) ⑬ふるま(敷) ⑭ふるま(敷) ⑮ふるま(敷) ⑯ふるま(敷) ⑰ふるま(敷) ⑱ふるま(敷) ⑲ふるま(敷) ⑳ふるま(敷) ㉑ふるま(敷) ㉒ふるま(敷) ㉓ふるま(敷) ㉔ふるま(敷) ㉕ふるま(敷) ㉖ふるま(敷) ㉗ふるま(敷) ㉘ふるま(敷) ㉙ふるま(敷) ㉚ふるま(敷) ㉛ふるま(敷) ㉜ふるま(敷) ㉝ふるま(敷) ㉞ふるま(敷) ㉟ふるま(敷) ㊱ふるま(敷) ㊲ふるま(敷) ㊳ふるま(敷) ㊴ふるま(敷) ㊵ふるま(敷) ㊶ふるま(敷) ㊷ふるま(敷) ㊸ふるま(敷) ㊹ふるま(敷) ㊺ふるま(敷) ㊻ふるま(敷) ㊼ふるま(敷) ㊽ふるま(敷) ㊾ふるま(敷) ㊿ふるま(敷)

ふるひーふるふ

ふるひ(篩)(名) 振りて入れたる粉末などの粗を濾(こ)し分ける具、わげ物の底に目なりに細みたる物を張れるもの。ふるふ(ふる) ①ふるふ(ふる) ②ふるふ(ふる) ③ふるふ(ふる) ④ふるふ(ふる) ⑤ふるふ(ふる) ⑥ふるふ(ふる) ⑦ふるふ(ふる) ⑧ふるふ(ふる) ⑨ふるふ(ふる) ⑩ふるふ(ふる) ⑪ふるふ(ふる) ⑫ふるふ(ふる) ⑬ふるふ(ふる) ⑭ふるふ(ふる) ⑮ふるふ(ふる) ⑯ふるふ(ふる) ⑰ふるふ(ふる) ⑱ふるふ(ふる) ⑲ふるふ(ふる) ⑳ふるふ(ふる) ㉑ふるふ(ふる) ㉒ふるふ(ふる) ㉓ふるふ(ふる) ㉔ふるふ(ふる) ㉕ふるふ(ふる) ㉖ふるふ(ふる) ㉗ふるふ(ふる) ㉘ふるふ(ふる) ㉙ふるふ(ふる) ㉚ふるふ(ふる) ㉛ふるふ(ふる) ㉜ふるふ(ふる) ㉝ふるふ(ふる) ㉞ふるふ(ふる) ㉟ふるふ(ふる) ㊱ふるふ(ふる) ㊲ふるふ(ふる) ㊳ふるふ(ふる) ㊴ふるふ(ふる) ㊵ふるふ(ふる) ㊶ふるふ(ふる) ㊷ふるふ(ふる) ㊸ふるふ(ふる) ㊹ふるふ(ふる) ㊺ふるふ(ふる) ㊻ふるふ(ふる) ㊼ふるふ(ふる) ㊽ふるふ(ふる) ㊾ふるふ(ふる) ㊿ふるふ(ふる)

ふるふーふる

ふるふる(名) ①ふるふる(ふる) ②ふるふる(ふる) ③ふるふる(ふる) ④ふるふる(ふる) ⑤ふるふる(ふる) ⑥ふるふる(ふる) ⑦ふるふる(ふる) ⑧ふるふる(ふる) ⑨ふるふる(ふる) ⑩ふるふる(ふる) ⑪ふるふる(ふる) ⑫ふるふる(ふる) ⑬ふるふる(ふる) ⑭ふるふる(ふる) ⑮ふるふる(ふる) ⑯ふるふる(ふる) ⑰ふるふる(ふる) ⑱ふるふる(ふる) ⑲ふるふる(ふる) ⑳ふるふる(ふる) ㉑ふるふる(ふる) ㉒ふるふる(ふる) ㉓ふるふる(ふる) ㉔ふるふる(ふる) ㉕ふるふる(ふる) ㉖ふるふる(ふる) ㉗ふるふる(ふる) ㉘ふるふる(ふる) ㉙ふるふる(ふる) ㉚ふるふる(ふる) ㉛ふるふる(ふる) ㉜ふるふる(ふる) ㉝ふるふる(ふる) ㉞ふるふる(ふる) ㉟ふるふる(ふる) ㊱ふるふる(ふる) ㊲ふるふる(ふる) ㊳ふるふる(ふる) ㊴ふるふる(ふる) ㊵ふるふる(ふる) ㊶ふるふる(ふる) ㊷ふるふる(ふる) ㊸ふるふる(ふる) ㊹ふるふる(ふる) ㊺ふるふる(ふる) ㊻ふるふる(ふる) ㊼ふるふる(ふる) ㊽ふるふる(ふる) ㊾ふるふる(ふる) ㊿ふるふる(ふる)

ふるあーふるひ

ふるあ(告示) ①ふるあ(告示) ②ふるあ(告示) ③ふるあ(告示) ④ふるあ(告示) ⑤ふるあ(告示) ⑥ふるあ(告示) ⑦ふるあ(告示) ⑧ふるあ(告示) ⑨ふるあ(告示) ⑩ふるあ(告示) ⑪ふるあ(告示) ⑫ふるあ(告示) ⑬ふるあ(告示) ⑭ふるあ(告示) ⑮ふるあ(告示) ⑯ふるあ(告示) ⑰ふるあ(告示) ⑱ふるあ(告示) ⑲ふるあ(告示) ⑳ふるあ(告示) ㉑ふるあ(告示) ㉒ふるあ(告示) ㉓ふるあ(告示) ㉔ふるあ(告示) ㉕ふるあ(告示) ㉖ふるあ(告示) ㉗ふるあ(告示) ㉘ふるあ(告示) ㉙ふるあ(告示) ㉚ふるあ(告示) ㉛ふるあ(告示) ㉜ふるあ(告示) ㉝ふるあ(告示) ㉞ふるあ(告示) ㉟ふるあ(告示) ㊱ふるあ(告示) ㊲ふるあ(告示) ㊳ふるあ(告示) ㊴ふるあ(告示) ㊵ふるあ(告示) ㊶ふるあ(告示) ㊷ふるあ(告示) ㊸ふるあ(告示) ㊹ふるあ(告示) ㊺ふるあ(告示) ㊻ふるあ(告示) ㊼ふるあ(告示) ㊽ふるあ(告示) ㊾ふるあ(告示) ㊿ふるあ(告示)

ふるんーふるつ

ふるん(風呂敷) ①ふるん(風呂敷) ②ふるん(風呂敷) ③ふるん(風呂敷) ④ふるん(風呂敷) ⑤ふるん(風呂敷) ⑥ふるん(風呂敷) ⑦ふるん(風呂敷) ⑧ふるん(風呂敷) ⑨ふるん(風呂敷) ⑩ふるん(風呂敷) ⑪ふるん(風呂敷) ⑫ふるん(風呂敷) ⑬ふるん(風呂敷) ⑭ふるん(風呂敷) ⑮ふるん(風呂敷) ⑯ふるん(風呂敷) ⑰ふるん(風呂敷) ⑱ふるん(風呂敷) ⑲ふるん(風呂敷) ⑳ふるん(風呂敷) ㉑ふるん(風呂敷) ㉒ふるん(風呂敷) ㉓ふるん(風呂敷) ㉔ふるん(風呂敷) ㉕ふるん(風呂敷) ㉖ふるん(風呂敷) ㉗ふるん(風呂敷) ㉘ふるん(風呂敷) ㉙ふるん(風呂敷) ㉚ふるん(風呂敷) ㉛ふるん(風呂敷) ㉜ふるん(風呂敷) ㉝ふるん(風呂敷) ㉞ふるん(風呂敷) ㉟ふるん(風呂敷) ㊱ふるん(風呂敷) ㊲ふるん(風呂敷) ㊳ふるん(風呂敷) ㊴ふるん(風呂敷) ㊵ふるん(風呂敷) ㊶ふるん(風呂敷) ㊷ふるん(風呂敷) ㊸ふるん(風呂敷) ㊹ふるん(風呂敷) ㊺ふるん(風呂敷) ㊻ふるん(風呂敷) ㊼ふるん(風呂敷) ㊽ふるん(風呂敷) ㊾ふるん(風呂敷) ㊿ふるん(風呂敷)



ふるてーふる

ふるて(ふる) ①ふるて(ふる) ②ふるて(ふる) ③ふるて(ふる) ④ふるて(ふる) ⑤ふるて(ふる) ⑥ふるて(ふる) ⑦ふるて(ふる) ⑧ふるて(ふる) ⑨ふるて(ふる) ⑩ふるて(ふる) ⑪ふるて(ふる) ⑫ふるて(ふる) ⑬ふるて(ふる) ⑭ふるて(ふる) ⑮ふるて(ふる) ⑯ふるて(ふる) ⑰ふるて(ふる) ⑱ふるて(ふる) ⑲ふるて(ふる) ⑳ふるて(ふる) ㉑ふるて(ふる) ㉒ふるて(ふる) ㉓ふるて(ふる) ㉔ふるて(ふる) ㉕ふるて(ふる) ㉖ふるて(ふる) ㉗ふるて(ふる) ㉘ふるて(ふる) ㉙ふるて(ふる) ㉚ふるて(ふる) ㉛ふるて(ふる) ㉜ふるて(ふる) ㉝ふるて(ふる) ㉞ふるて(ふる) ㉟ふるて(ふる) ㊱ふるて(ふる) ㊲ふるて(ふる) ㊳ふるて(ふる) ㊴ふるて(ふる) ㊵ふるて(ふる) ㊶ふるて(ふる) ㊷ふるて(ふる) ㊸ふるて(ふる) ㊹ふるて(ふる) ㊺ふるて(ふる) ㊻ふるて(ふる) ㊼ふるて(ふる) ㊽ふるて(ふる) ㊾ふるて(ふる) ㊿ふるて(ふる)

ふんふーふんあ

フキフキけり「回回教」(名) フキフキは、ウイグルス(Uigurs)の轉訛(ワイグルス)人種此宗教を信じ交那に遷しよりの「マホメット」教に同

ふんいーふんさ

ふんい「文意」(名) 文章のわけ、文章の意味。ふんちん「紛紜」(名) いろいろみだる、いりま

ふんさーふんご

ふんさ「噴氣」(名) 瓦斯をよき出すと、又、よきてる瓦斯。ふんさ「焚毀」(名) 火をかけてやくと、又、火に

ふんくーふんく

ふんくわ「噴火」(名) 火山の、噴岩又は水蒸気若しくは火山灰等をよき出すと。ふんくわ「焚火」(名) 火をたくと、又、たく火。

ふんくーふんけ

ふんくわ「噴火」(名) 噴火する山、火山。ふんくわつ「分轄」(名) 分けて管轄すると。

ふんげーふんご

ふんげき「憤激」(名) はげしくいきどほると。ふんげふ「分業」(名) 手を分けて業をなす

ぶんしーぶんち

ぶんしーぶんち [名] 藤の緑の狭き野袴。
ぶんしーぶんち [名] 藤の緑の狭き野袴。
ぶんしーぶんち [名] 藤の緑の狭き野袴。
ぶんしーぶんち [名] 藤の緑の狭き野袴。

ぶんちーぶんち

ぶんちーぶんち [名] 藤の緑の狭き野袴。
ぶんちーぶんち [名] 藤の緑の狭き野袴。
ぶんちーぶんち [名] 藤の緑の狭き野袴。
ぶんちーぶんち [名] 藤の緑の狭き野袴。

ぶんちーぶんち

ぶんちーぶんち [名] 藤の緑の狭き野袴。
ぶんちーぶんち [名] 藤の緑の狭き野袴。
ぶんちーぶんち [名] 藤の緑の狭き野袴。
ぶんちーぶんち [名] 藤の緑の狭き野袴。

ぶんちーぶんち

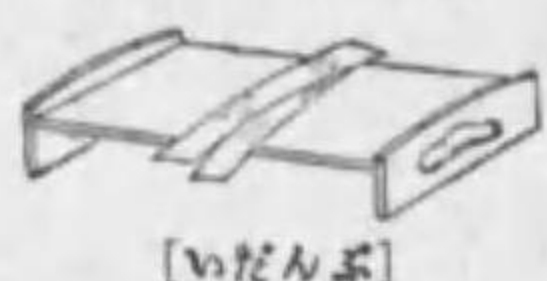
ぶんちーぶんち [名] 藤の緑の狭き野袴。
ぶんちーぶんち [名] 藤の緑の狭き野袴。
ぶんちーぶんち [名] 藤の緑の狭き野袴。
ぶんちーぶんち [名] 藤の緑の狭き野袴。

ぶんちーぶんち

ぶんちーぶんち [名] 藤の緑の狭き野袴。
ぶんちーぶんち [名] 藤の緑の狭き野袴。
ぶんちーぶんち [名] 藤の緑の狭き野袴。
ぶんちーぶんち [名] 藤の緑の狭き野袴。

ぶんちーぶんち

ぶんちーぶんち [名] 藤の緑の狭き野袴。
ぶんちーぶんち [名] 藤の緑の狭き野袴。
ぶんちーぶんち [名] 藤の緑の狭き野袴。
ぶんちーぶんち [名] 藤の緑の狭き野袴。



ふんづーふんぞ

ふんづまり「糞詰」(名)糞のまとこはりて通じ
ふんで「筆」(名)ふみての管便ふて、「ぬと」
ふんてい「文體」(名)ふんたいに同じ。

ふんぞーふんば

ふんぞく「文徳」(名)なまきけぶかき徳
ふんぞし「積鼻」(名)男子の陰部を蔽ふ布
ふんぞく「積鼻」(名)男子の陰部を蔽ふ布

ふんばーふんぶ

ふんばく「分簿」(名)善量にて、算見を数多の籍
又は簿にわけくばると。
ふんばきみ「文挿」(名)ふみばきみに同じ。

ふんぶーふんば

日間ふんぶくくと押き返りしとぞ。
類に属する蝶皮動物、海中に産す、心臟形をなして
介殼薄し前縁の腹面に口を開く、棘長し。

ふんばーふんめ

ふんばてり「蚊母鳥」(名)「動」かすひどり
ふんばのち「墳墓地」(名)はかどころ、はか
ば。祖先の墳墓ある所、即ち故郷。



ふんやーふんり

ふんや「文屋」(名)學問所。
ふんや「分野」(名)境涯、境遇、「魚鳥の」を見
よ。支那の古昔、其全土を天の二十八宿に配當
して區別したる稱。